



目指せ！自治会の活性化

担い手通信

ダイジェスト

「この講座で学んだことを、一つでも二つでも
自治会に持ち帰り、活動に活かしたい・・・！」

平成23年度 地域づくり担い手育成講座から



平成23年度「地域づくり担い手育成講座」の様子をご紹介します

長崎市では、地域の若い世代の方に、自治会活動への知識を深め、自治会を牽引する力を身に付けていただくため、平成20年度から「地域づくり担い手育成講座」を実施しております。今年度は、毎回のテーマごとに講演や事例紹介を行い、実際の活動時に感じる悩みや課題を出し合い、具体的な解決手法を探りました。

自治会活動のヒントがぎっしり詰まった講座の様子を、是非ご覧ください。

講座の記録

- | | | |
|------------------|----------------------------|----------------|
| Chapter 1 | 総論 | P 2~11 |
| | * 講師講演「誰もが安心して暮らせるまちづくり」 | |
| Chapter 2 | 地域と防災 | P 12~23 |
| | * 市長講演「東日本大震災に見る地域住民のつながり」 | |
| Chapter 3 | 加入促進 | P 24~37 |
| | * 白熱教室 | |
| Chapter 4 | 若者との対話 | P 38~55 |
| | * フリートーク | |
| Chapter 5 | 見守り・支え合い | P 56~75 |
| | * DVD上映 | |
| | * フリートーク | |
| Chapter 6 | 自治会の運営 | P 76~91 |
| | * フリートーク | |

Chapter 1 総論

講師講演「誰もが安心して暮らせるまちづくり」

「誰もが安心して暮らせるまちづくり」

長崎ウエスレヤン大学 教授 中野 伸彦 氏

おはようございます。中野でございます。

実は今日は「私が話をする」というよりも、むしろ私自身が、地域の実態について、よくお聞きしたいという気持ちを強く持っています。

改めて県下を見渡してみても、長崎は自治会活動が熱心な所です。にも関わらず、受講生の方の自己紹介で色々なお話がございました。

うちに、ああいう悩みがある。こういう悩みがある。恐らく、悩みのない所なんて、課題のない所なんて無いだろう、と。できたら、こういう機会に是非、こうしたものを持ち寄って、色々なノウハウを互いに活かしあうことが出来ればいいですね。私自身、少しでもお手伝いできれば……。話の内容はですね、本当に当たり前の話で、「釈迦に説法」ということになるかと思いますが、今後の活動にお役に立てればと思います。



結婚相談所の相談件数が激増!? ～震災で人々が気付いたこと～

災

害といえば、3.11の東日本大震災と津波、さらには原発による放射能汚染、電力不足という課題に見舞われてますが、今回の地震が起きましてですね、あれ依頼、色々なものが変わったと言われておりまして。その一つに……。こんなお話をお聞きになったことないですか？……。結婚相談所の相談件数が非常に増えたと。

例年の5倍とか、10倍とか。1箇所じゃなくて、全国に広まっているという話で。よくよく事情を聞いてみたら、何も適齢期世代だけじゃなく、他の世代でもそうだと。

ああいう震災の状況が連日、TV等で視覚的に入ってくると、「自分の亡くなる時って、

どういう状況なんだろう？」って。ずーっと一人暮らしで、生きているのか死んでいるのか分からないような状況の中で亡くなることの侘しさと寂しさとか……。そういったことを考えた時に、あらゆる世代がですね。一人で生きていくことの心寂しさみたいなことが、分かったのかなあ……。

一方で、家族と再会して喜び合う姿とか、被災された方々が、手を取り合って生きていかざるを得ない、そういう時の、人と人とのつながり、絆の温かさ、大事さというか……。そういうところに人の意識がキューッといった。で、結婚したくなる、というんですね。一人でブラブラしているよりも、「この人と」という想いがあれば、もう、結婚したい。

結婚相談所の話で面白いのが、申し込む時に希望の項目にチェックするそうなんですけど、女性の希望には、まず真っ先に“年収”っていうのがある。それが震災以降、そこにチェックを入れない人が急に増えてきたそうです。年収1000万以上とか、そんなものより、



家族を大事にするとか、優しさとか、つながりを大事にする、そういう内面的なものにグーッと視点がいった。そういう傾向なんだそうです。やっぱり、どうせ亡くなるんだったら、こういう人と亡くなりたいとか。或いはそういうギリギリのところですね、お金よりも・・・年収が何百万以上、学歴がどの位、身長が何センチ以上とかよりも、という、そういう価値観が何だか変わってきたという・・・これ、面白い傾向です。

一方で離婚も増えてるようですね。これも同じような報告ですが、「この人とは一緒に死にたくない！（場内爆笑）」、「この人なんだろうか・・・？」と。震災を境に、人と人の絆とか、或いはつながりの大事さとか、そういうものを、日本全国が何だか共有し始めた、という動きがあるようでございます。

随分変わってきた“ご近所”との関係

戦

中、戦後と生きてらっしゃる方であればですね、昭和20年代の、あの焼け跡で、本当に食べ物が無かった頃、「本当にお腹がすいた」という体験をされていると思います。その頃は第1次産業が中心の時代で、農林漁業という、共同で手を取り合って互いに生産をして、成果物もやっぱり共有して分け合う・・・地域の共同体というものが自然な形で出来ている、という時代でありました。ちょっとした擬似家族のようなものが地域の中にできているもんですから、お隣の子供であろうと何であろうと、自分の子供と同じように叱るのが当たり前。顔と名前もよく分かってる。

それが昭和30年代に入って、第2次産業が中心の時代になって。製造業が全国各地にいっぱいできて、専業農家が兼業農家になり、やがてはサラリーマンになっていく。それで農地がだんだん宅地化していく。

松浦市志佐町の奥の、ずっと田んぼが広がっている所で地域づくりをされてる方がおっしゃってました。「ここ30～40年で随分変わった。農地だった所が、どんどん宅地になって、人と人とのつながりが、大きく変わっていった。」

そりゃ、そうでしょうね。やっぱり農業っていうのは皆でやるもんですから、それが兼業農家、やがてはサラリーマン化して、バラバラになっていく。そしてサラリーマン収入として現金が手元に入ってくる。家計というものが、独立した形で出来上がる訳です。



それから電化製品が家庭に入ってきます。冷蔵庫・洗濯機・掃除機・炊飯器・テレビ・・・現金収入がドンドン入ってきて、電化製品をいっぱい買って。そうすると中々、お隣さんのことまで目がいかなくなるんですね。逆にあまり、よそ様のことをやり過ぎると、お互いに気を遣って「疲れる」ということで段々途切れていく。

そういう風な時代になってきて、これが昭和40～50年代位になると、第3次産業が随分と伸びてくる。運輸・通信、サービス業、さらにコンビニ。同時に、マスメディアがどっと全国に広がって、パソコンが各家庭に入ってきて、携帯電話が普及して。



そうなりますと、私達の暮らしに大変大事な知恵であるとか、子育ての情報であるとか、そういうものは、かつては、おばあちゃんから子へ、子から孫へ、という風な形で代々つながっていった。或いは地域の方々との色んな雑談の中で、重要な情報を得ていたものものが、今やもう、人を介さずともボタン一つで必要な情報が、しかも瞬時に手に入る時代になった。それだと人がいない訳ですね。関わる必要がない。「すっきりするなあ」ということで、地域とのつながりが、ドンドンいらなくなる。で、今やもう、家庭の中でもですね、家族もバラバラ、なんて話になってしまっている。

時代が後戻りした！ ～それは、まさに終戦直後の状態～

このように、人々が手に入れた便利さを手放して「時代が後戻りする」ことはない、とも思われますが・・・戻りましたですね、今回の大震災！私達は、どういう映像を見せつけられたか・・・？まさに終戦直後、全国各地の主要都市がどんどん空襲によって破壊された、あの焼け跡の状態です。電気が無い、水が無い、ガスも来ない、交通手段もバラバラ。家庭も・・・家屋が無いから住めない、食べ物も無い、コンビニも無い・・・これ、終戦直後の状態じゃないですかね。実態として・・・「戻っちゃった」んですね。

そして初めて気付いた。何が大事なのか。やっぱり大事なのは人と人とのつながりじゃないかと。色んな余計な物、便利な物があるんだけど、その影で、どうも私達が見失ってしまっていたものが、ようやくああいう風な・・・あってはならない事ですけど・・・ああいう現実の中で、実感できるようになったんですね。私達はそこから、かなり多くのことを学ばなきゃいけないんじゃないか、という気がします。

阪神淡路大震災では6,434人が亡くなりましたが、その時の状況を、社会学者や色々な方々が調査したら、ある一部の地域だけが生存率が高かった・・・何でかな、と。

一つ分かったことは建材。殆どの方は倒壊家屋の下敷きになってらっしゃるんですね。でも、それより大きかったのが、地域のコミュニティができていた、つながりがあったということなんです。それはなぜか？・・・あれは朝方だったでしょうか、地震が起きたのは。

「この時間帯には、この人はここにいるはず」ということが、家族だけじゃなく、地域の人もある程度分かっているから、そこを目指して探せばいい。さらには顔も名前も分かっているから、名前を呼べる訳ですね。「〇〇ちゃん、大丈夫か？生きてるか？待っとけ！」とかですね。さらには手をつないで、手を取り合って、一緒に救出作業をしたり。

一方でこの逆を考えると、中心街の大きなマンションとかで、隣のことも知らない。名前も顔も、あまり話もしない。住んでいるかどうかさえ分からない。・・・声のかけようがないですね。で、その辺の違いが出たんじゃないかと。そうしますと、顔と名前が分かっている、或いは、人と人とのつながりがある、ということが、いかに災害に強いのか、減災に役立つのか、ということが見えてくるんじゃないかな、ということです。

そしてこれはもう一つ、防犯効果もございますよね。田舎と比べて、都会がいかに犯罪が多いか、これはもう、ご承知のとおり、匿名社会である、と。これは犯罪学でいえば、非常に犯罪を起こしやすいと言います。悪い事をしても人ごみに隠ればいい。名前も顔も分かってない。これは引っくり返せば、顔と名前が分かっているということが、犯罪の抑止効果になる、ということです。

「ヒゲを生やした、見かけん人がおる。ありゃー、よそもんやな。」とか「見かけん車があった」という風なことはやっぱり、犯罪の抑止効果があるのじゃないか、という気がいたします。やっぱり、“つながり”というのは非常に大事だということになる訳です。

目指すは「誰もが安心して暮らせるまちづくり」

ところで、長崎は平成17年から18年にかけて、1市7町ということで広域化しましたが、都道府県別で最も合併率の高かった自治体をご存知でしょうか？実は、長崎県なんですね。よく合併先進県なんて言いますが、「先進」というのは、ちょっと……。と言うのは、合併して良かったかどうかを聞くと、どこに行っても、「良かったと思う人？」って手が挙がらないんですよ。「合併しない方が良かったと思う人？」って聞くと、パラパラと手が挙がるんですね。

これはもう、財政事情が背景にありますから、合併してもしなくても地獄、なんていう話もありますが。合併したら、どこも、基本計画や総合計画という、新しいまちづくりのマスタープランを作ります。で、色々見てみたら、面白いことに最終目標、目指すべき町の目標というのは、ほぼ共通なんです。つまり「誰もが安心して暮らせるまちづくり」。表現は地域によってちょっと違いますが、ほぼ、この言葉で言いくるめられます。

「誰もが安心して暮らせるまちづくり」。さあ、そうしますと、地域に色んな方がいらっしやいます。「誰もが安心して暮らせるまち」に今、なってるかな？と考えてみますと、現在の状況では決して、どこを見てもそうではありません。

ましてやこの後・・・10年、20年後はどうかと、不安ばかりでございます。これ、どの町もそうなんですね。そうするとやっぱり、“まち”は皆で作っていかないと。で、そのためにはどうしたらいいか？色んな困り事をお持ちの方が、必ず地域にいらっしやる。で、そういう方の思いが必要な所に届いて、そこから必要な支えのための動きが始まって。更に、それが出来るだけ短時間で解消出来る、となれば、これは「誰もが安心して暮らせるまち」ということになる訳でございます。

で、私はその動きのことを簡単に「それは福祉のまちづくりですね」という風にお伝えしております。地域にお住まいの、障害のある方や一人暮らしの高齢者が安心して暮らせるためには、何が必要なのか？色々考えて仕組みを作っていかないといけない訳です。そこでですね、「いや、まちづくりって役所の仕事でしょ」って話をよく聞く。そのために税金出してますし、議員さんもいらっしやるし……。そんな時、「いや、“まち”はですね、実は地域の皆さん、住民参加の動きが必要なんですよ」って、申し上げてるんです。

右手と左手のハナシ ～住民参加のイメージ～

それを「分かりやすく説明できないかなー」と思って、お風呂の中で色々考えてたら、ふと浮かんだのが石川啄木の「働けど～・・・じっと手を見る」っていう詩がある。じっと自分の手を見て・・・そしたらまず右手、これで役所の動きが説明できるな、と。

役所に色んなお仕事がありますけど、まず親指、これは一般の、市民の方に共通の・・・教育、住民、交通、上下水道、ごみ、住民票関係・・・そういう公共サービスを仮に**親指**で表すとします。あと残りの4本指が、それぞれの福祉関連サービスという訳です。

まず**人差し指**が医療・保健関連のサービス。それから**中指**が高齢者の福祉や介護保険に関連したサービス。**薬指**は障害者のための福祉サービス。**小指**は子供、或いは家庭、女性。そういう公的サービスがあって、そこに計画があって、そのサービスが住民の方に降りていくような形になってるんですが・・・指の形をよく見るとですね、先に行けば行く程、こう、広がるんですね。で、**ここに谷間ができるな**、と。

地域の方は、こういうサービスがあるのを、どれ位ご存知なのかな？きちっと必要な時に、ちゃんと手続きして利用できるのかな？実は困っている方ほど、こういうサービスをご存知ない、という皮肉な状況が、結構ございます・・・つまり、谷間にいらっしゃる訳ですよ。

例えば、生活保護を受けるために役所に行ったけど、色んな書類を出せだの、離婚相手から慰謝料取れだの、養育費持って来いだの、何やかんや言われて、疲れて、もう帰ってしまった。で、しばらくして餓死した、と。そんな風な話がある。

亡くなって1週間後によく見つかる「孤独死」というのもございます。何でもっと早よう、見つからんやっただか？地域の方も気付かんやっただか、と。

色んなサービスはあるんですね。でも、それを中々、利用できてない。そんな状況だと「誰もが安心して暮らせるまち」にはならない訳です。色んなサービスがあってもですね。

そこで大事になってくるのがこの、左手の動きでございます。地域は当然、様々な暮らしの悩み事、課題がございます。同時に、その中に実は「支え手」もいらっしゃる。だから「課題」と「支え手」が両方隠れてる。これが地域だろうと私は思ってるんです。

そういう中で・・・色んな悩み事がございますね。例えばアパートなんかで「隣の物音がうるさい」。それは何も役所に頼む話じゃないですね。できれば、自分が行って「静かにしてくれ」って。それが出来なければ、大家さんや自治会長さんをお願いして、ちょっと仲介に立ってもらったりとか、地域住民同士で何とか工夫すれば解決できる課題というのを、仮に指の**第3関節の課題**だと言います。**様々な課題の取り分けをする**んですね。

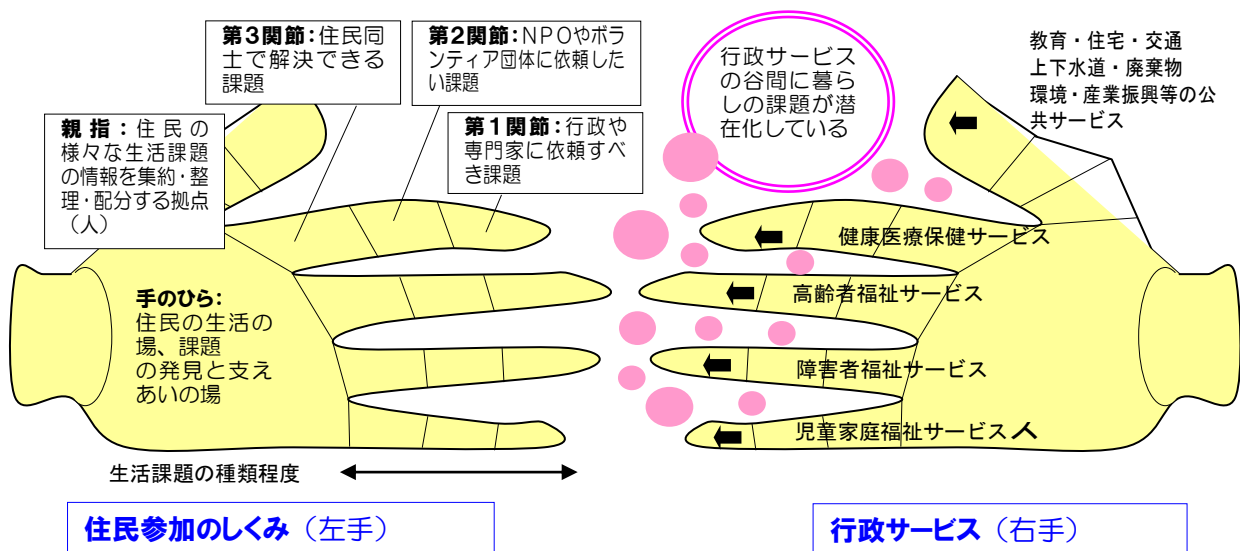
それから、土地の権利や家の所有関係とか、財産、相続・・・そういった法律関係は法律家。或いは体のことなら医者。つまり専門家、ということになる訳ですけども、そのもう1歩手前のNPOさんに頼めば、何とか解決できるかも。在宅で障害のある方が、ちょっと旅行に行きたい時に支援をしてもらおう。それは丁度、ボランティアやNPOさんがいたな、と。そういう課題を仮に、**第2関節の課題**と言います。

それから、弁護士さんやお医者さん、役所の仕事など、「非常に専門性の高いもの」或いは「行政の課題」、そういうものを**第1関節** という風に仮に考えていきます。

すると、そういう風な地域の課題を取りまとめる**仕分けを誰かがせんといかん**訳です。それを仮に**左手の親指**で表す。そうすると、この親指はどなたがおやりになるのか？課題を集めて、仕分けをして、つなげる・・・この親指の役割が非常に大事でございます。

これを、地域によっては自治会がしてくださったり、社会福祉協議会の方々がされているところもあります。或いはこの両方が連携して、やってらっしゃる地域もございます。そういう風なものが動き出せば、この右手と左手が合わさる訳ですね。そうすると隙間が無くなり、谷間が埋まってしまう。これでようやく「誰もが安心して暮らせるまち」の仕組みができるかなあ、と。あくまでこれは、イメージですけど。

福祉のまちづくりに向けた住民参加のイメージ

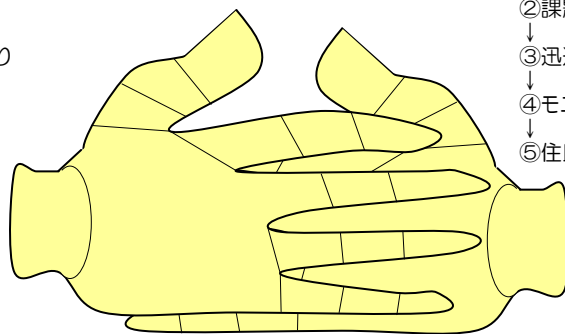


【住民参加の手順】

- ①住民相互の顔がみえる関係づくり
- ↓
- ②相談窓口や交流のための拠点づくり
- ↓
- ③課題情報を集約配分するしくみづくり
- ↓
- ④住民による支援のための仲間づくり
- ↓
- ⑤公的なサービスとの連携づくり

【行政の役割】

- ①課題情報の窓口の一本化
- ↓
- ②課題情報の効率的な管理運用
- ↓
- ③迅速なニーズへの対応
- ↓
- ④モニタリングによるサービス評価
- ↓
- ⑤住民参加への奨励・支援



官民(公民)一体のまちづくりの完成イメージ: 谷間がなくなり、暮らしの課題を官と民で支えあうしくみができあがる

作成/中野伸彦

大事な点は2つ。1つはどう考えても、地域住民が動かないと形にならん、ということ。それからもう1つはですね、右手は・・・1つあればいいです。法律や制度、サービスですから。でも、この左手は1つあればいいってもんじゃないんです。

そしてこの左手は小さければ小さい程いい。なぜなら、顔と名前が見えてないと動かない。そういう性格のもので、出来るだけ小さいほうがいい。中学校区より小学校区、小学校区より連合や自治会。自治会よりもご近所やお隣さん。小さければ小さい程いい。その方が動きが取りやすい。ということは、それだけ、たくさんないといけないですね。右手は1つでも、左手は地域にいっぱいないと、実際の動きにつながらない。

福祉のまちづくり ～3つのプロセスを考える～

福

祉のまちづくり という言葉を出させていただきました。先程の皆さんのお話で、中々会員が増えない。それどころか、ドンドン減っている。で、高齢化して、本当に必要な方々が脱会していく。そんな中で、存在意義とかそういうものを、もう少し明確に打ち出せたら、という話がありました。会の目的、何のためにこの会があるのか、ということきちっと位置付けて、目標を掲げる必要があるんじゃないかと。私から提案ですが、「福祉のまちづくり」を大きな目標にして、「誰もが安心して暮らせるまちのために、自治会があるんですよ。」というのがあるんじゃないか、と思うんです。

そうすると、それは一足飛びに出来る訳ではありませんので、私は3つ程、段階を作って考えます。第1段階は「土地を耕す」ということ。何でもそうですが、まず土地が枯れてたら、どんな種をまいても芽を出さない訳ですから、土地を耕すというのは大事です。次に「種をまく」という第2段階があって、最後に「花を咲かせる」第3段階、という風に考えていきますと、**第1段階**の「土地を耕す」土壌作りというのは、もう少し分かりやすく言いますと、顔と名前の分かる関係づくり、ということになるろうかと思えます。

今日もですね、実はたくさんの実践というか、活動例を聞かせていただいて、それだけでかなり、この土壌作りのところは、いっぱい入るんじゃないか、という気がいたします。色んなイベントとか活動をされてる中で、地域の方々の顔と名前が分かる関係がドンドン広がってる。で、これがあると、第2・第3段階にスッと行けるんですね。

第2段階は「支援の仕組みづくり」。大事なことは、地域における「課題」と「支え手」が潜在化してますので、両方とも表に出していく、顕在化させる。やり方としては2つ。1つは地域ごとの相談窓口と交流拠点。これを小地域単位で作っていただく。これはどこに行っても聞くんですよ。子育て、介護・・・色んな所で地域の方々とお話していると、真っ先に作って欲しいのが地域の「たまり場、交流の拠点」だと。

さらに、そこに相談窓口があれば「もっといい」と。実は、相談窓口や愚痴を言い合える交流拠点は、日常的な所ないと機能しないんです。わざわざバスに乗って構えて、という行き方ではなくて、ツッカケ履いて、普段着で愚痴れるような、そういう所に相談窓口とか交流拠点が必要とされてる。この声は色んな所から聞こえてきます。何も、長崎だけの話でなくて、全国共通のことです。これをひとつ、作っていただくといいのかな、と。

福祉のまちづくりのプロセス

第1段階

1

支援の
土壌づくり

顔と名前の
わかる関係
づくり

- 祭り、地域運動会、伝統行事等
- 挨拶プラス・ワン運動（対馬市）
- おもしろ科学実験（諫早市）
- 車いす体験ラリー（諫早市）
- ふるさと探検隊・田んぼの教室（生月）
- 福祉のまちづくり子どもセミナー（対馬市）
- 子どもによる地域新聞づくり
- ふれあい学習（長崎県社協・地区指定事業）

●評価の指標

- 知り合いの数
- つき合いの頻度
- 関わりの度合い
- 他人への関心度
- 地域への関心度

【地域座談会の活用】

- お茶の間トーク（佐世保市）
- ふくし発見、よってみっか（上五島町）
- やってみゅ〜で・わがまち座談会（長崎市）

第2段階

2

支援の
しくみづくり

地域の課題
と支え手を
掘り起こす

- 小地域の区割り
- 相談窓口の設置
- 交流拠点の設置

- ①地域アンケート等の実施
- ②地域課題の発掘
- ③地域課題の分類整理
- ④支援者の発掘と組織化
- ⑤支援ネットの配置と連携

- 相談窓口の配置状況
- 交流拠点の配置状況
- 支援意識の変化
- 支援者の数と組織数
- 自治会等の意識と動き
- 社協の取り込み状況

地域のリスクマネジメント (コミュニティソーシャルワーク)

第3段階

3

支援の
動きづくり

支援のしく
みを動かす

課題

- ①課題の種別分類
- ②リスクレベルの分類
- ③社会資源の活用支援

支援

- ご近所さん／民生委員
- 自治会／支え合いネット
- NPO／ボランティア団体
- 医療／司法相談機関等
- 各種行政サービス

- 支援の認知度
- 支援の利用度
- 支援の効果度
- 安心感・安全度
- 暮らしやすさ

◎目標／ 誰もが安心して暮らせるまち

もう1つはアンケートですね。地域のアンケートなんかで、様々な地域の課題を集める。そして同時に「支え手」もお尋ねする。「支え手」を一緒にやりましょう。やれたらここに、マルを付けてください、という風な。「課題」と「支え手」の両方が表に出てくるような、そういうアンケートを作っていたきたい。それから、「御用聞き」なんてのもありますね。「何かお困り事ないですか？」そういうのを色々、手分けしてやってもらう、と。この辺りが第2段階でございます。

そして**第3段階**・・・実はもう、第3段階まで行ってらっしゃる自治会、ありますよね。女の都の小田さんや深堀の西さんの所、支え合いネットワークのような形をお作りになってらっしゃいますね。あと、「助っ人隊」鶴の尾の山口さんの所、北陽・・・これは自治会ではないですけど、「北陽つなむ会」。この辺の動きとかですね、地域独自に色んな形で支えあう仕組みがある。この仕組みの背景には、やっぱり土壌ができていて初めて、きちっと動くんですね。



非

常に大事な点はですね。ここで申し上げたいのは、そういう支え合いネット。これがもっと広がっていくと、いいなあと思うんですね。で、実は地域の課題には色んなレベルがあると申しましたけれども、支え合いネットまでいかななくても、ご近所さんや民生委員さんとの関わりの中で解消できるような課題。それから、先程申し上げましたNPOさんをお願いする、或いは医療サービス機関や行政にとか、そこら辺になるとですね、自治会さんをバックアップする仕組みとして、地域の社協さんが支部レベルで関わっていただくとうまく進む、つなげていただけるのかな、ということがございます。少し広域化していくと、自治会さん同士が連携する意義が出てくるんですね。広域的に課題を見ていくと、「こっちに色んなサービスの資源がありますよ」という振り分けが出来る。

そういうこともあって、こういう講座を通して自治会さん同士が連携し合うことの大事さが出てくると思うんですね。やはり、市の自治振興課がこの講座を開いている、と同時に、市の社会福祉協議会さんなんかも、そこに関わっていただくと、色んな知恵をですね、福祉関係の専門家がいらっしゃいますので、色んな知恵も出てくるのかな、という風に感じております。（※毎回の講座に、市社協の職員さんも参加していただきました）

今、高齢化が非常に進んでいて、そうすると、一人暮らしの方をどう支援していくか、緊急の課題というのはその辺りかな、という気がしています。是非、それぞれの自治会さんに「自分のところはどの段階か」ということを改めて振り返って、これからの自治会活動



のデザインを描いていただくといいな、と。この3年後、5年後、10年後・・・新しい時代というんでしょうか。基本は人と人とのつながり、絆の大事さ、これを出して、支え合う仕組みというのを考えていただければ。

すみません、お時間が来てしまいました。長時間、ご静聴ありがとうございました。

（場内拍手）

Chapter 2 地域と防災

市長講演「東日本大震災に見る地域住民のつながり」

皆さん、おはようございます。

今日、まず皆さんにお話しないとイケないのは、この“地域づくり担い手育成講座”に参加をいただいて、本当に嬉しく思っています。

地域地域がそれぞれに良くなっていく・・・この4年間、あちこちの地域を回らせていただく中で、地域のそこ、ここに（見えないところを含めて）、支えてくれる人達がいるってことを、ずっと感じてきました。

その中でやっぱり、お互いに情報交換をすることで・・・「こんなやり方もあるよ」とか、「うちはこんな体験して、こんな道を見つけていった」とか、そういう色々な情報交換をすることで、実はそれだけで随分、地域が良くなっていくヒントを見つけることができるという面と、もう一つは、「何かやりたいんだけど、何をどうしたらいいのか分からない」という皆さんに、まずは興味を持っていただく、或いは入口を見つけていただく機会を作ろうということで、“地域づくり担い手育成講座”を3年前にスタートしたんですけど・・・。

またこうやって拝見しても、本当にもう、地域で既に色々な活動をしておられて、実績をお持ちというか・・・逆に、色々なヒントを与えてくれる皆さんが、たくさんお集まりのようですので、是非、そういう場として、お互いに意見交換をしていただければと思います。



今日はですね。私、時間をいただいて話を、ということでしたので・・・。

実はペーロン大会が今日と明日あって、今日はですね、職場ごとのやつ（職域）と中学生チームと女性チームとありまして。職域が15チーム、中学生が12チーム・・・中学生、大分増えてきたんですね・・・それから女性チームが4チーム参加して、相生市からもやって来て・・・ペーロン大会が始まったばかりで、そこから来たんで、ちょっと、こういう格好（ラフなダウンシャツ）なんですけども。



あの一、ペーロンなんか、あれはまさに地域のつながりを作っていく、次の世代を育てていく、色々な知恵が集まってる伝統行事の一つだなあという風に思います。くんちの時にですね、よく思うんですけど、例えば川舟。川舟って毎年出るんですよ、町は違うけど。その時に、船の舳先に、網打ち船頭の小学2～3年生位の子が立って、網打ってるじゃないですか。あその場面っていうのは、一番のハイライトっていうか、みんなが注目する場所ですよ。あそこを小学校2～3年生の男の子に任せるといって、このやり方っていうのは本当にすごいな、と毎年思うんですね。

それは長崎の人達の知恵で、あれをやった子は絶対、一生忘れない。その子供達が次の世代の「うちの町を支えていくんだ」という自覚を必ず持つようになる。そういう子供達を育てていく、そういう仕組みになってるんじゃないかな、って思うんですね。

だから本当にもう、色んなところに昔の人の賢さを見る思いがします。
『あんなことやってる町、他にありとかな?』って思うぐらい、本当に、長崎は子供達を信用する、信頼する町じゃないのかな、と思います。

子供達が色んな所で活躍してくれてて・・・例えばもうすぐ8月9日に平和祈念式典がありますけど、広島での平和記念式典を、毎年参考にさせていただくんですけど、やっぱり長崎と広島の違いの一つは、子供達が出演するといいますか、役割を担う場面が圧倒的に多いんです。それは子供達を参加させることで、ずっと先につないでいく、子供達もお客さんじゃなくて、ちゃんと役割を持たせて1人前に扱っていく。



社会の中で「あなた達も社会のメンバーなんだよ」ということを、ちゃんと自覚させていくっていうか、そういう仕組みでもあるんだろうと。そういうことを、なんかこう、気付かずに当たり前みたいにやってる。平和祈念式典の司会も高校生に任せてるっていう・・・それは多分、ずっと長崎の中にいると気付かない、当たり前みたいなことになってるんだけど。実はその仕組みの中に隠されてる思いというのは、子供達は町の宝であり、そして次の担い手であり、世代を越えてつないでいくことの大事さというのを、長崎の人達はずっと知ってるんじゃないかな、という気がしています。



で、今日は防災というテーマなんで、そっちの方の話に入っていきたいと思います。そういう地域のつながりや、世代を越えてのつながりの大事さというのは、今度の震災でも、ものすごく、よく分かったことの一つだと思います。

まず阪神・淡路大震災があった時に・・・私もよく話すことなんですけど、そのデータの一つとして、3万5千人位の方が生き埋めになって、そのうち2万8千人位が地域の皆さんに助けられた、と。自衛隊とか消防とか警察とか、そういう所に助けられた人は2%位で、自分でどうにかしたり、地域や知り合いや色んな人に助けてもらった人が98%だ



ったという。数字を見た時に、やっぱり“いざ”という時は・・・例えば市役所だって潰れるかもしれない、或いは出て来れないかもしれない、時間がかかるかもしれない。色んなケースがあるので、やっぱり自分でどうにかする、地域でどうにかする・・・近い所で解決する、助けることが大事だということが、阪神・淡路大震災で特に・・・もう、身に染みて感じたところだった訳です。

で、阪神・淡路大震災の時の色んなやり方の中で、やっぱり「これはうまくいかなかったな」ということの一つは、仮設住宅に入って・・・入った後に、自殺する方が結構おられたということがあったんですね。

その反省を踏まえて、新潟県の中越地震の時には、山古志村が村ごと、仮設住宅にまわって入りましたよね。あれはこう、住宅があればそれでいいという訳じゃなくて、そういう不安な時こそ、地域で気心が知れてる、顔も知ってる人達がいる、その中にいる、ということの安心感だったり、ストレスを除いてくれるということが、いかに大事か。地域の皆さんのつながりが、いかに大事かということ、ある意味で前回の地震に学んで、山古志村はそういう選択をしたんだと思います。



そういう、地域のつながりが大事っていうのは・・・うちの保健師がですね、東北の震災の時に、現場に派遣したんですね。保健師とか消防士とか水道とか、色んな職員を派遣したんですけども、その中で、私が5月の連休に福島に行った時に、向こうで働いてくれている長崎市の保健師と話をしました。

その時に「私達は今、二次避難をしてる人達の面接や、心と体のメンタルケアをやっていきます」という報告をしてくれたんですね。二次避難っていうのは、最初の大きな体育館とかにいる段階を過ぎて、家族ごとにアパートとかホテルとかに入ってもらって、その段階のことですね。その段階で・・・避難所にはプライバシーがないから・・・そういう形で分かれていった時に、今度は家族だけにいることのストレスが生まれてきていて、「それが一番の課題になってます」ということを、保健師が報告してくれたんですね。

もう一つ、関連して私が見てきたのは、体育館の避難所で、よく段ボールみたいなので、家ごとに仕切っている所がありますよね。あれが、あんまり無い避難所があったんですね。そこで、「あれ、どうしてここは、こんな風になってるんですか？」って聞いたら、「皆で、囲い過ぎないやり方にすることに決めたんです。」って話してくれたんですね。例えば、足の悪いおばあちゃんがいたら皆でお世話をする、っていうことなんだろうと思うんです。

だから、さっきの保健師の話とか、そういう事例なんかを考えると、人間っていうのは、1人の時間も大切だし、家族といる時間も大事だし、地域の皆さんと一緒にいる時間も大事だし。みんな大事なんだ、どれかが1つあれば、それでいいっていうことじゃなくて、どの時間も大事な時間なんだ、っていうことだと思うんです。



特に、家族を亡くされた方々がたくさんおられた訳ですけど、その時に、地域の皆さんとのつながりがあったから・・・「生きていける」という事を言われる方が本当にたくさんおられました、と、保健師・・・別の保健師ですけど、報告してくれました。

ですから、“地域のつながり”というのは、本当に人間の命を救う、心を救う大事なものだということが、また、今回の災害でも証明されたってということだと思っんですね。



特に、“地域のつながり”で大事なものは、急にその場で出来ないってことだと思います。勿論、その場で少しずつ、こう、つながっていくこともできる・・・それもあるんですけど、やっぱり普段からつながりをつけておく、顔見知りになっておくということが、ものすごく大事だってことも、今回分かったことの1つだと思います。

そういう意味で、先程申し上げたペーロンだったり、くんちだったり・・・お祭りだけじゃなくて運動会でもいいし、子どもを守るネットワークでもいい、色んな時に顔見知りになっておくことが本当に大事で、その大事さ・・・普段は中々気付かなくても、今回よく分かったんじゃないかなあと思います。

そういう“つながり”ということが、東日本大震災ではよく言われますけど、大震災の時は東京近辺でも、かなり大きな地震があって、そのまま帰れない人・・・帰宅難民って言われましたけど、たくさん出ましたよね。ディズニーランドではあの時に、2万人以上の人がディズニーランドの中に泊まったんですね。で、ディズニーランドはそういう準備をしていて、で、泊まれるような形をとっていたんですね。非常食なんかも、たくさん備蓄していて、しかも地盤の改良もちゃんとやっていたので、ディズニーランドの中では、例えば液状化なんかは起きなくて。周りの駐車場とか住宅地とかで非常現象が起きてて、マンホールがこんなに高くなったりとか、道路がズレたりしてましたけども、ディズニーランドの中は大丈夫だったってことがありました。



実は震災があってから、「Pray For Japan (日本のために祈ろう)」というサイトに、色んな人達が声を寄せてくれたことがあって・・・その中の幾つかが“つながり”ということに繋がっていくので、ご紹介したいと思うんですけど、一つ目が、そのディズニーランドのお話です。

ディズニーランドでは、ショップのお菓子なども配給された。

ちょっと派手目な女子高生たちが

必要以上にたくさんもらってて、

「何だ？」って一瞬思ったけど、その後、その子たちが、避難所の子どもたちにお菓子を配っていたところをみて **感動**。

子供連れは動けない状況だったから、

本当にありがたい **心配り** だった。

いつか自分の子供や孫に話そう。
「おばあちゃんが若かった時、東日本大震災があって
世界が1つになった。皆が一つのために必死になって
支えあって輝いていたんだよ」って。
相手が聞き飽きるまで話そう。
だから1人でも多くの人に元気になってほしい。



「大丈夫」の漢字には
人が3人集まっているから
安心を感じる言葉なんだって。

物が散乱しているスーパーで、落ちているものを律儀に拾い、
そして列に黙って並んで、お金を払って買い物をする。
運転再開した電車で、混んでるのに妊婦に席を譲るお年寄り。
この光景を見て外国人は絶句したようだ。
本当だろう、この話。すごいよ日本。

NHKの男性アナウンサーが被災状況を淡々と読み上げる中、
「ストレスで母乳が出なくなった母親が
夜通しスーパーの开店待ちの列に並んで ミルクが手に入った」
と紹介後、絶句。沈黙が流れ、放送事故のようになった。
すぐに立ち直ったけど泣いているのがわかった。
目頭が熱くなった。

今まで以上に 力強い国になりますように。
皆が優しく分け合う心を
持ち続けていられますように。
1人の力ではどうにもならないことでも、
多くの人の知恵と力で
共感・共鳴の輪が広がっていきますように。

駅員さんに
「昨日 一生懸命 電車を走らせて
くれて ありがとう」って言ってる
小さい子達を見た。
駅員さん泣いてた。
俺は号泣してた。





千葉の友達から。
 避難所でおじいさんが「これからどうなるんだろう」と漏らしたとき、
 横に居た高校生ぐらいの男の子が
 「大丈夫、大人になったら 僕らが絶対 元に戻します」って
 背中さすって言ってたらしい。 大丈夫、未来あるよ。

何時間も歩き続けてたんだけど、
 至る所で「トイレ貸します」とか「休憩できます」とかいう
 ビルや飲食店がたくさんあって感動しました。
 とある企業ビルの人がボランティアで、
 「〇〇線運転再開です〜！」とか「休憩できます〜！」て
 呼びかけてる姿を見て 感動して泣きそうになった。
 マジで、日本も捨てたもんじゃないな。

仙台の友の言葉。

「暗すぎて
 今までに見たことないくらい
 星が綺麗だよ。
 仙台のみんな、上を向くんだ」
 こんな くさいセリフが心に突き刺さった。



ちょっと前より 夜の暗さを感じる。
 ずっと前はそうだった。
 ちょっと前より 人の温かさを感じる。
 ずっと前はそうだった。
 ちょっと前より 強くなった。
 ずっとこれから 諦めない。



「Pray For Japan」・・・東日本大震災のわずか12分後から
 届き始めた、海外・国内からの〈祈り〉のメッセージ、エピソード
 を集めたWebサイト。震災当夜、停電中の一時避難所にいた20
 歳の大学生（鶴田浩之さん：諫早市出身）によって立ち上げられま
 した。左の写真はこれを1冊の本にまとめたもの。今回、鶴田さん
 と編集部（講談社）のご好意で、幾つかのエピソードをご紹介します
 ていただきました。

こんな色んな声が寄せられています。
で、ついでに読みますと、長崎市が1番最初に派遣した保健師が、宮城に行ってくれたんですけども、その人の報告の中に、こんなことが書かれています。

今回私は、宮城の方々の人間性に、とても心が洗われました。
自分自身を見つめなおさせられました。

東北の皆さんの、心優しく、人を気遣い、助け合う、いたわり合うという、
人間として当たり前の姿に、頭の下がる思いでした。
本来の日本人の姿が、ここには残ってるんだと思いました。
そして、もっとも印象に残ったことがありました。

それは、「コミュニティがあることで、人は元気になれる」ということです。
皆さん、家も失くし、家族も亡くしておられる状況の中で、
近所の方が声かけしてくれることが、どれだけ励みになり、
気持ちを吐露することができ、生きる力を与えてもらえるのか、という場に
たくさん遭遇しました。

ふだんのコミュニティの強さが、人をこれほど元気づけ、
前向きにさせるのだと思いました。
家族を亡くし、たった一人残されても、コミュニティというのは、
その人に生きる力を与えてくれるのだと痛感しました。

一人きりになった方に対しては、
「みんなで頑張ろうねー。命があればなんとかなるさ」と、声掛け合っていました。

* * * * *

今回の災害は、下校前に起こったことで、
子どもの犠牲が少なくて済んだと話されていました。
「子どもが走って遊ぶ姿が、みんなのエネルギーになる」と
話されていました。

こういった・・・これは報告の一部なんですけど、こういう色んな現場を見た、体験した人から報告が寄せられていて、そこでは本当に、普段からの“つながり”っていうのが、どれだけ大事か、災害にならないと気付かないけれども、それを改めて気付いた・・・皆さんからたくさん、こういう声が寄せられています。

これは丁度、さっき言った阪神・淡路大震災の反省が中越に来て、中越の反省が今回の東日本に来たように、私達も水害を体験しましたし、19年は台風が幾つかありましたけども、全国で色んな体験が蓄積されていく中で、私達も今、東北から学ばないといけないことがあるんじゃないかな、と思います。



それからもう一つ、今回、東日本大震災で学んだことってというのは、先程ちょっと言いましたが、“世代を越えたつながり”の大事さだと思います。

特に今回ちょっと話題になったのが、『津波てんでんこ』という言葉がありましたよね。昔の人がそういう言葉を残してくれた。それは津波の時は『てんでんこ』・・・てんでバラバラ、という意味なんですけども、津波の時はとにかく、人の事はいいから、自分のことだけを考えて逃げろっていう教えですよ。

家族のことだとか、友達だとか、貯金通帳が（笑）、とか、そんな事を言ったら、一瞬の迷いで命が助かるか助からないかの分かれ目になってしまう。津波の時は「とにかく逃げろ」って、「自分の命だけ考えて逃げろ」っていう昔の人の教え、言葉が改めて見直された訳ですけども。そういう昔の人の教え・・・世代を越えて繋いでいくということの大事さも、今回分かったんですね。

それは7. 23大水害の時も言われたことで、特に色んな大きな被害が起きた・・・長崎中で起きた訳じゃなくて、特に長崎の場合は、ほとんど土砂災害ですから、崖崩れとかで亡くなった方達が9割近くですから、そういう意味で考える時に、大きな災害が起きた所の地名が・・・本当にそういう「滑石」であったり、「川平」であったり・・・そういう地名の中に隠されている、昔の人の伝承する気持ちっていうんですか、そういうのがあったんじゃないかな、ということが指摘されました。

そういうこともありますし、特に7. 23大水害には山川河内（さんぜんごうち）っていう所で、亡くなった方が一人もいなかった、ということの裏に、江戸時代の終わり頃に・・・1860年位ですか、土砂災害があって、その時32名の犠牲者が出て、その時から、毎月14日にお饅頭を作って、地域の人に配るという風習を始めて、それがずっと続いていて、今・・・30世帯ほどだと思うんですけど、その頃の思いをずっと、お年寄りの皆さんが若い人に、って感じで見つないできていて。その時に昔の人の言い伝え通りに・・・例えば崩れる前兆っていうのは「山が揺れる」とか「こんな匂いがする」とか「石垣の水が泥水に変わったら危ないぞ」とか、そういうことが語りつがれていて、そして「その通りにしたんです」っていう、自治会長さんのお話がありました。



こういう、時代を越えて繋いできた教えっていうか、経験っていうか、東日本大震災でも改めて認識されたんじゃないかなって思います。

その中でも災害の時に一番大事なのは

「逃げる時期を逃さないこと」。

気付いたら早く逃げることだっていうことも、山川河内の皆さんが繋いできた知恵なんですけども、それを実践されたのが、もう一つ・・・平成9年の“北陽崖崩れ”の事例だったと思います。

・・・北陽の方、いらっしゃいますか？ — 《3班の松田さんが挙手》 —
是非、話す機会があったら話していただきたいんですけど、まさに自治会長さん達、地域の皆さんが清掃活動をしていた時に見つけた崖の亀裂みたいなのを、ずっと注目されて、「いよいよ危ないぞ」って時に避難を呼びかけて、その数時間後に崖崩れが起きて、結局皆さんが助かったっていう事例が、北陽町であっております。

ですから長崎もやっぱり、同じような経験を・・・災害の大きさに関わらず、してきているということだと思います。その意味で北陽の皆さんの、その時の“つながり”っていうのは今も・・・「北陽支援会」を作られて・・・今は「つんなむ会」になってますけども、そういう動きの中にずっと、そういう経験が命を助けたってこととかも含めて、地域で助け合うことの大事さっていうのが残っていて、「それ、大事にしよう」ってことで、それが今の色々な活動につなげて来られてるんじゃないかなあという風に思いますし、基本はどの地区であっても、名前に“水”とか“川”とか付いてない地区でも、どこも同じなんだろうと思います。



長

崎市も来年が水害から30年なんですけども、この30年の間に防災でいうと、ハードを整備することと、ソフト面・・・ソフト面っていうのは“逃げる”とか“避難する”とかいうことなんですけど・・・それと、ハード&ソフトっていうか、その真ん中にあるような、防災行政無線やなんかを“整備すること”と“使うこと”ってのを、こう、一緒にやっていかないと効果が上がらない。

ハード面についてはダムの整備や、最近で言うと公共施設の耐震化工事とか・・・まずは学校で危険度の高い所から始めて、一応順調に、第1段階は平成22年度にクリアをしました。震度6強の地震が起こった時に危ない（IS値0.3未満）っていう所の部分が済んで、今は次の段階に入ってますけど、そういうハード面の整備。これは行政でないと出来ない仕事なので、そこはまず、しっかりやることです。

それからハード&ソフトの部分で言うと、防災行政無線の整備も、平成21～23年度の3年間かけて、今整備を進めています。それは今までやってきた部分で、やっぱり聞こえにくかったりとか、角度が悪かったりとか、或いは足りなかったりとかいう所の整備ですね。また、防災行政無線に関しては、これ、本来が万能ではありませんので、これだけで全情報を得るということはできません。サッシで密閉してしまったり、雨音が強かったり、風の向き

きだったり、そんなもので聞こえないという状況は、常に起こり得るといふ道具ですので、それを補うものとして、メールであったり、或いは電話で「今、何か言いよったのは、何やろうか？」と確認できる仕組みもありますので・・・そういったものがソフト面ですかね。セットでやらないと効果が出ない、そういうものにも取り組んでいます。

テレフォンガイダンスによる方法

- 災害情報案内 Tel. 0180-999-001
火災や救助などの災害情報をお知らせします。
(自動音声での応答になります。)
- 防災行政無線放送内容案内 Tel. 0180-999-002
防災行政無線の放送内容をお知らせします。
(自動音声での応答になります。)
- 医療情報案内 Tel. 095-825-8199
(18時～翌朝6時までは、自動音声での応答になります。)
当番病院の診療科目情報などをお知らせします。

それからもう一つのソフト面、これが非常に大事です。「早く逃げる」というのは、まさにソフト面なんですけども、そういう意味で自主防災組織が大事だというのは、言うまでもないんですけども。自主防災組織って名前が、何か防災専門みたいに聞こえますけど、これは要するに、地域の皆さんで、防災について“活動する”、そして“考える”、時間や仕組みを作ってください、ということですね。長崎市での組織率は37～38%位しかなくて、全国の平均が74%とかなんで、長崎市の自主防災組織率は非常に低い。それで今少しずつ、皆さんとお話をしながら組織率を上げていってる状況にあります。

そこで地域の皆さんの中に、防災について少し詳しくあったり、何か教えてあげられるような方達がいると身近で、防災訓練をする時も含めて、助かることが多いんじゃないか、ということで、「市民防災リーダーの育成」というのを、この3年位やってきています。今256人位、市民防災リーダーの方達があります。既に色んな取組みをスタートされていて、例えば鳴滝なんかは、とにかくたくさん防災リーダーになろうっていう風に進める・・・そういう地域が幾つか出てきております。これも、これから進めていかなければいけない動きだと思っております。

防災リーダーの皆さんのお力を貸していただく場として、今年スタートするのが「地域防災マップ作り」です。もう、お聞きになられたかもしれませんが。やっぱり地域ごとに、状況が全く違いますので・・・山の手の方と、川の近くと、全然違いますから。琴海と外海では潮の高さが随分違いますから、そういう意味では、地域ごとの防災マップ作りをしていく中で、地域の意識を高めていくという活動を、今年からスタートしていこうという風に思っています。

それからもう一つ、今回の震災で話題になった災害時の要援護者。体が動けなかったり、障害をお持ちだったり、そういった皆さんをどうやってサポートするかっていうことも、今、名簿の登録を・・・個人の了解をいただかないと出来ない部分がありますので・・・了解いただけた分については、自治会長さん達に提供させていただくことを進めています。ただ、これもまだまだ道半ば、という風にも思っています。



こ
ういう、ハードからソフトまでを組み合わせながら進めていく、ということが非常に大事だと思っております。特にその中のソフト面ですね。さっき言った、実際に命を助けるというのは、地域のつながりだとか、早く逃げるとか、その時の行動が分かれ目になることが分かってきています。そういう意味で地域の力が大事だということを、改めて感じさせられています。そこで、今日お集まりいただいた皆さん・・・今日は“防災”がテーマですけども・・・



防災についても『これからどんな風に取り組んでいったら良いだろう』というところから、スタートをしていただければ、と思います。

その時にですね、1つだけ、すごく大事なことは、実は答えは1つに固まってる訳じゃなくて、『その答えをやればいいんです』って、そんなものではないです。地域によっても違いますし、災害のパターンも・・・例えば今回の東北みたいに、もう全滅みたいな感じであったり。阪神みたいに、ある1つの地域を中心に崩れて、回りはそうでもないっていうケースであったり。同じ市の中の、1箇所或いは数箇所が極端にやられて、後は大丈夫だったり。

そうした中でも、行政機関がやられて動けないっていうケースがあったり、道は大丈夫だっというケース・・・もう、色んなケースがあります。

そういう意味では、やはり皆さんがお互いの経験値・・・『うちは、こういう風にやりますよ』っていうのをお互いに知らせあう。で、『うちはこんなことがあって』・・・先程の北陽の話がそうですけども、色々皆さん、同志の情報交換というのが、すごく大事になってきていて。

こう、答えがあるからそこに行く、というんじゃなくて、結局は“地域のつながりの大切さ”っていう方向性だけが分かって、そこに向けて今、知恵と実践を積み重ねていく段階だということを、是非、頭のどこかに入れておいていただきたい。まだ、やってみないと分からないことがたくさんある、とか、色んなパターンがあるんだってことをですね、是非、災害については認識しておいていただければ、と思います。



色

々、駆け足みたいな話になりましたけれども、東日本大震災で学んだ事の1つは、『地域のつながりが命を救う』ってこと。

それから『世代を越えたつながりが命を救う』ってこと。

そして長崎でも、それを学んできた歴史があるっていうこと。

そして行政と地域・・・それぞれの家庭の役割も・・・自分の家はどんな風に揺れるかってことを、普段から話しておくことも大事です。うちは崖があるけど、隣には無いっていう風に、一軒ごとに状況が違ったりしますから、家庭での役割って大事です。

『行政と地域と家庭が連携しながら』、やっていかななくてはいけないということ。

最後に、『皆さんの経験値をお互いに共有し合う』ということが非常に大事だ、と。なぜかという、まだ学び合ってる段階だからっていうことを、最後にお伝えさせていただいて、今回のお話を終わりたいと思います。

ご清聴、ありがとうございました。



Chapter 3 加入促進

白熱教室「自治会脱会は自由 !?」

白熱教室

皆さん、おはようございます。約2ヶ月ぶりのご無沙汰でございますが、ウエスレヤン大学の中野でございます。今日はテーマが“加入促進”ということで、どなたかがアンケートにも書いてらっしゃいましたが、「いよいよ核心に触れるテーマ」であると……。 “白熱教室”という、こういうチラシが送ってきておりまして、“加入促進”という……保険の勧誘チラシのような……。

中に、その、悪徳セールスマンみたいなですね（笑）写真がございますけども。自治会の加入促進につきましても、ご存知のとおり、長崎県だけの課題ではございませんで、全国的な悩みの種である。ですから、色んな知恵を結集して加入促進に向けて、全国のアイデアを募る、そういうことも必要なのかな、と思います。

この……核心、自治会のいわば1番の課題になっている加入促進、これが今日のテーマでございます。

そういうことでいえば今回の講座は、どういう風な展開になるのか、私も緊張しておりますけども、“白熱”をしていきたい、という風に思っております。



それではまず、参考資料（26ページ）をご覧ください。

ご覧のとおり、平成16年に最高裁で判決のあった「自治会脱会は自由である」という判決について、中田実先生という……自治会、町内会の研究者としては日本の第一人者でございますが……名古屋大学名誉教授の中田先生が『地域分権時代の町内会・自治会』という本の中で解説をされている、その部分を一部抜粋したものであります。

この判決は自治会関係者にとりましては……恐らく皆さんもそうでしょうけど……かなりセンセーショナルな、インパクトの強いものであった、全国的に衝撃を与えた判決だと言われておりまして。ここで最高裁が明言してるのがですね、

自治会は強制加入団体ではない
 つまり **住民の自主的な意思でつくられる任意団体である** と、

こういうことを言っている訳です。それだけでなくとも加入率が低下して、頭を痛めてらっしゃる自治会の役員さんの皆さんにとっては、大変迷惑な判決……正確には「判決の見出し」と言わざるを得なかったんじゃないか。



(裁判趣旨)

県営住宅の入居者によって構成され、権利能力のない社団である自治会の会員は、当該自治会が、会員相互の親睦を図ること、快適な環境の維持管理及び共同の利害に対処すること、会員相互の福祉・助け合いを行うことを目的として設立されたものであり、いわゆる強制加入団体でもなく、その規約において会員の退会を制限する規定を設けていないという事情の下においては、いつでも当該自治会に対する一方的意思表示により退会することができる。

(解説) 「地域分権時代の町内会・自治会」(自治体研究社・中田実 著) P103 ~113 から抜粋

これは、埼玉県住宅供給公社が設置した住宅3棟で構成された団地の自治会をめぐって起こされた裁判の判決である。この団地自治会の役員であった一住民が、役員間の意見の不一致から、2001年に自治会脱会を申し出た。その住民は、脱会したのだからと自治会費を払わなかったため、自治会側が、滞納額の支払いを求めて裁判を起こした。その結果、一審、二審ではこの住民の退会は認められず、滞納した自治会費の支払いが命ぜられた。判決に不服であったこの住民は最高裁に上告し、その結果得られたのが上記の逆転判決であった。

最高裁はこの判断の根拠として、自治会は「強制加入団体」ではないし、当該自治会は退会を制限する規定を持っていないことをあげて上記の判断を示した。そして、滞納されていた自治会費月額3,000円が、内訳としては狭義の自治会費300円と共益費2,700円よりなることから、自治会費については退会者に請求できないとし、しかし共益費の負担は公社との契約として、入居の際に「退去しない限り支払うことを約束しており、支払い義務は消滅しない」として、共益費分の滞納額の支払いを命じたのであった。

(中略)

この判決は、自治会にとっては厳しいものにみえるが、その先に見えてくるものもあるように思われる。一つは、**自治会への加入、非加入を問わず、その地域に居住する限り、共同の利害(共益)のための負担を免れることができない**ということであり、同時に、**共益に関わるすべての住民に開かれていなければならない**ということである。こうした決定のために全住民を包含する組織が必要であるとすれば、それが町内会型の組織である。

一審、二審では、このような認識を示した。最高裁の判決では、月額300円の自治会費については支払わなくてよいとしたが、これは、住民共同の事務の遂行を担う自治会組織については、住民の任意の意思によるアソシエーションであることを認めるものであった。こうして自治会からの「退会の自由」が認められることになるが、共益費については、その地域から「退去しない限り」負担の義務を負うのであり、退会は、公社だけでなく実際には自治会も持っていた共同の事業についての <発言権を放棄する> ことでしかないということになった。

他面で、退会しても他人が負担する便益をそのまま利用できるということになれば、それは「フリーライダー」を認めることであって、公平の原理に反する。通常はこのレベルでしか受け止められない町内会について、その基盤に、地域共同の生活に基盤を置いた住民の共同体があること — 判決ではその運営は公社だけが行うことに限定したが — を想起させたところに、この裁判の意義があった。

町内会は、これだけの重みをもった組織である。それだけに、その運営については慎重な配慮が必要である。また、自治会からの脱退は、生活者としての権利の主張のようにみえて、実はその放棄でしかないことを肝に銘じておきたい。**その地域から「退去しない限り」放棄できない権利と義務があること、そしてその意味で、町内会はまさに地縁組織であることを理解することが必要である。**

そう申しますのは、この判決文をよくを讀みますと、**単純に「住民は自治会に入らなくてもいいんだよ」ということを言ってる訳ではないんですね。**正確に言うそうですね、脱退を制限する規約が今のところない、と。最高裁の判例の事例の中の自治会さんについては脱会を制限する規約がない。従いまして入会を強制する規約もない、と。規約がないという理由の中で、実はこういう風な見出しのような内容になってる。そういうことを最高裁の判例文と、中田先生の解説なんかも、そうおっしゃってらっしゃいます。資料の中ほどですが、太字になっているところをちょっとご覧になってください。

「自治会への加入、非加入を問わず、その地域に居住する限り、共同の利害のための負担を免れることができない」それから**「公益に関わるすべての住民に開かれていなければならない」**。そういうことで言いますと、この判決はですね、「自治会に入らなくてもいいんだよ」ということでは決してなくて、いわば**住民の責務**として、**実は入る必要があるんだ、という“住民の姿勢”**と、それから**“自治会の姿勢”**を同時に問うものなんだ、ということをおっしゃっております。



いかがでしょうか？今日はですね、この白熱教室・・・このあたりの最高裁の判決を一つネタにしながら、加入促進に向けて議論していきたいと思いますが。

こうした解釈につきましてですね、ここでいきなりですが、皆さん方に、ご意見を伺いたいという風に思うんですけども。「自治会脱会は自由」という見出しがある。しかしよく読んで見ると、そうではない、という中身でございますが・・・。

何でも構いません。色んなご意見がですね、見出しに関しても、中身に関しても、色々あるかと思いますが。いかがでしょうか？だいたい、始めには言い出しにくいもんでございます。そこで事務局の方から少し入れ知恵がございまして・・・。

第2班のですね、富増さんあたりから「生ぬるいんじゃないか」なんて心の声が聞こえてきたような・・・いかがでしょうか。

(一瞬ビクッとして辺りを見回し) 何を・・・お答えすればいいんでしょうか(汗)。

あの一、これ、今見たばかりで、内容を最初から最後まで読んだ訳ではありませんが・・・自治会脱会が自由っちゃうのは・・・辞めていく人達は皆そう言います。

「自由なんですね、これ強制ではない、任意加入なんですね。」と言って辞めていきます。前回のアンケートでも少し書いたんですが、私はこれは、**その土地に住むには当然・・・自治会に入るのはもう、責務じゃないかと。皆さんは自分の権利ばかり主張しますけど、責務・義務として考えてはおられない。**

私のまちは新興住宅ですから、住宅が開けた頃はみんな「いい町を作ろう」ってことで一生懸命だったんです。それがだんだん高齢化していきまして、子供は皆、巣立ちあがってしまひまして、じいちゃん・ばあちゃん達ばかりの中で。ですから最初は、100%に近い加入率だったと思いますが、今はもう85%位に落ちてるようです。

こういう新興住宅ですので、中々新しく人が入ってこないですね。ただ年取っていくばかりで、抜けていくばかりで、徐々に加入者が減っていったということ。やはりそこには色んな事情があって・・・資料の中に「未加入理由(P32)」っていうのがありまして、そっちの方に興味があって見てたんですが、「なるほど」と思う理由と、やりたくないから“言い訳”で“こじつけ”で言ってるに過ぎない理由というのものもあるんじゃないかと思ひます。

「自治会脱会は自由」という見出し、私これ、いいと思うんですね。私、新聞を作ってるんですが、今度のテーマはこれにしようかなと思うぐらいで。「自由?・・・こんなこと書いてる!」ということで、中身何だろうかと読みたくなりますよね。これ、いいヒントだなと、そればかり今考えておりました・・・訳の分からない回答ですみません。

自治会加入は 住民の責務である

ありがとうございました。

富増さんはですね、**本来自治会は住民にとって、加入する責務がある**ということをお話されながら、一方でですね、「自治会脱会は自由である」という見出し、これ、読んでもらうためにはいいんじゃないの、という、そういうスタンスでお話いただきましたけども。

さあ、もうお一方ぐらい、いきますか。

1班の山野さん・・・いつもアンケートなんかで鋭いご意見をいただいているようですが、この件についていかがでしょうか。

(苦笑) はい・・・えーっと、実際に自治会に加入されている人が辞めていくというケースが、私共の方にもいくつかあるんですけども、**理由はほとんど班長さんの当番(輪番)が回ってくる、ということ**で。実際の運営に携わるのはどうも・・・ということから、脱会者がある程度出てきます。で、私共の団地も45年前位に開発されて、当時、自治会を作ろうと、皆が積極的に立ち上がって、関わっていたんですけども、高齢化が進む中で、今のよう な話が出てきた。

当然私共としても大きな問題でして。「必ずお隣に」ではなくて、そのまたお隣にお願いすることで、何とか解決できないか、と。役員を免れるための退会ではなくて、退会そのものはしないけど、**籍を残して、会費は払って頂いたままで、役員だけを次の方に譲る、というやり方で何とかカバーしています。**

一つ言われるのが・・・**退会はしないけども、回覧板はパスしてくれ、**という話が出ておりまして。このケースも、今はとりあえず班の中で解決していただくようにしてるんですけども、やっぱりこれも、この先出てくるのかな、と思っています。これはあの、私共の地域の特殊な環境からかもしれません、回覧板をお隣にお届けするのに、塀越しに「ハイ」という訳にいかないんですよ。20段位階段を下ってですね、そして横に移動して、さらにお隣の階段を20数段上って、回覧板を届けて・・・と、これを繰り返すもんですから、回覧板だけはパスしたい、というようなことが実態です。

ということで、ここに出ている“退会は自由です”という話は、私共、受け入れはしてるんですけども、課題としてですね、問題を残していく・・・禍根を残していくという形で取り上げたいと思っています。以上です。

はい、いくつか語って頂きましたけども、やはりこの見出しといいますか「自治会退会は自由である」というような言葉が独り歩きすると、禍根を残すのではないかと。あと、加入というよりも、**脱退をどうやって抑えていくか**というところで、2～3の対応策をご紹介いただきました。“辞める理由”とかですね、ここら辺については後ほどまた、触れてみたいと思います・・・あ、今、お手が挙がりましたので・・・4班の市山さん。



未加入世帯の子どもに
自治会費から
ラジオ体操の記念品を
渡してもよい？

私は、自治会というのは全員参加が建前じゃないかと思います。そうしなかったら、地域の環境・秩序は壊されてしまいます。

例えば先日、夏休みのラジオ体操をやりました。その時の商品代というのは全て自治会費から出すんです。そうすると、自治会に加入していない世帯の子どもさんも参加する訳ですね。しかし、子供に「未加入世帯だから来るな」とは言えませんし、最後の参加賞としてお菓子を配る時は、その子供達にも配ります。

そうすると、先日の部長会で「会長、そこまで自治会費から出していいんですか？」と質問されました。これは一例ですけども、全員参加だったら、このような問題は何も起こりません。

特に今、高齢者が相当増えてます。私のところも、多分高齢者は4人に1人の割合じゃないかな。そうすると、支え合う・助け合うということは、全員参加じゃないとうまく出来ないですね、福祉の面から考えても。本当にここが一番、私は問題じゃないかな、と思います。

それで、「自由だ」・・・そんなことをよく言いますね。辞める時に「自由だから辞めます」とか。そんな時に私は、こんなこんなで、と説得はするんですけども、聞く耳は持たないのが最近の中年以降の方々ですね。

そんなことで、「自由に」というのは、ちょっと困る、と。以上です。

多分・・・恐らくですね、今日の参加者、全員が同じ考えをお持ちじゃないでしょうかね。未加入者に対する扱い、ということで、不公平感が出てる。P26の資料でいきますと、下から8行目位に“フリーライダー”というですね、何か横文字が載ってますが、これ、そのまんま“ただ乗り”と。未加入者はですね、“ただ乗り”してるんじゃないかという、この辺の課題が一つ出ております。

ありがとうございます。ここでお聞きしたのは、最高裁判決のですね、「自治会脱会
は自由である」という判断につきまして、ご意見を伺った訳です。で、これにつきましても、ほぼ同じようなご意見だろうと思いますが、ただ、こういう見出しが一人歩きする時の問題といったものもあるのかな、という風に思います。なぜ脱会するのか、或いは加入しないのか、といった辺りはですね、また後に、テーマとしてありますので、先にいきたいと思いますが。

《課題》

未加入者は
“フリーライダー”??
(ただ乗り)

次に「自治会とは何なんだ」と。地域にとってですね。常にこうした議論が起きるのは、一つはその歴史にヒントがあるという風に言われております。第1回目の講座のおさらいになりますけれども、自治振興課の方からですね、自治会の発生起源について、元々は自然村であった、つまり自治体とほぼ同じ扱いとしてですね、歴史的にはそういうルーツがあった、というご紹介がありました。そこに加入・非加入という考え方はなくてですね、「地域に住んでいること」と「自然村（つまり自治会）の構成員となること」というのは、かつてイコールであった、という風なことです。これが自然であって、非加入という選択肢そのものがなかったんだと。

《歴史的背景》

自治会の発生起源・・・ムラ（一説）

「地域に住むこと」＝「ムラの構成員になること」

非加入という選択肢そのものがなかった！

しかし時代は移り変わり、村としての行政的位置付けも失って、人々の意識とか職業とか生活スタイルもドンドン変わっていく訳でございます。そういった中で、住民の中で自治会の位置付けも随分変わってきたんじゃないかな、ということです。ただし、そこで変化しなかったのは「自治会が包括的な地域課題をテーマとしていること」そして「そのための役割を担っていること」は今日も一貫しているのではないのでしょうか。

ここで、自治会の基本的性格を改めて確認したいと思います。

自治会の基本的性格

- ① 一定の地域区画をもち、その区画が相互に重なり合わない。
- ② 区画内の全住民で組織するが、世帯を単位として構成される。
- ③ 原則として全世帯が参加する。
- ④ 地域に起きる様々な問題に、包括的に関与する。
- ⑤ その結果として、行政や第三者に対して地域（住民）を代表する。

これは先程紹介した中田実先生の著書の中に紹介してある内容ですが、概ねこの5つが「自治会の基本的性格」という風にいわれております。ここでちょっと気になるんですが、⑤の「地域代表性」ですね。これは、住民（世帯）の大半が加入しているからこそ、これ、言えるのではないかと思います。・・・その理屈でいきますと、加入率が50%を割ってしまったらどうでしょう？自治会は地域の代表組織じゃなくて、ただの任意団体の1つに過ぎないということになる訳でございますが・・・。

そこでちょっと参考にしたいのがフランスの事例なんです。フランスの都市に「近隣住民組織」っていうのがあって、会員数が僅かであるにも関わらず、この組織は、行政や住民から“地域代表性”を持つことを承認されているんです。つまり住民が付託している、住民の付託に応える組織として認知している。しかも行政のお墨付きでもある、ということですね。その理由は何なのか。それがこの3つなんです。

この「近隣住民組織」が

- ① 地域共同の課題に取り組むことを目的に存在している。
- ② 常に地域住民に参加を呼びかけている。
- ③ 地域の情報を地区住民に提供する活動を行っている。

この3点で、住民や行政からお墨付きを得ている、ということなんです。で、こうした活動が評価されてのことに他ならないんです。これ、どうでしょうか。自治会が現在やってらっしゃることと全く同じじゃないでしょうか？・・・変わりませんよね。ということであれば、**加入率に関わらず、自治会が自治会としての姿勢を貫いている限りは、自治会は地域において、地域を代表する、重要な存在であり続ける、**という風に受け止められる訳ですが。

ただやはり、そうは言っても、やっぱり加入率が下がると、住民の意思を集約して実践するというのがやりづらくなりますし、先ほどの「フリーライダー」の問題も、そのまま課題として残る訳でございます。で、そういうことでいきますと、加入率を下げない、脱退者を増やさない、もっと言えば加入者を増やして行く、という、そういう取り組みが必要になってくる訳です。これは本日の本題であります。

《主な自治会未加入理由》

- * 住んでいる地域やマンションに自治会がないから
- * 自治会活動に参加できないから
- * 忙しくて役員をできないから
- * 加入のメリットが感じられない
- * 自治会に入らなくても困らない
- * 近所付き合いが面倒
- * 活動内容が不明
- * いずれ転居する予定がある
- * 自治会との意見の食い違い・トラブル
- * 会費を払えない

自治振興課窓口寄せられる声から

先程ちょっと、お二方から“辞める理由”ということですね、いくつかご指摘がございました。そこでこれから“未加入者の声”というものについて確認していきたいと思えます。まず、敵・・・じゃないですが、原因を知る。住民の立場で一度考えてみようじゃないか、ということです。これは長崎市の自治振興課窓口寄せられた声をまとめたものです。ご覧のとおりで・・・中には「えーっ」と言いたくなるものもございませぬけれども、「どうして加入しないのか？」という、未加入者の本音というのを知っておくことも、加入促進のためには大事なことじゃないかと思えます。



そこでまた、皆様のご意見を伺いたいんですが……。加入促進に必要なことって、どんなことだと思われますか？……。何でも構いません。大きな事、小さい事、とにかくこういうのは知恵を出し合うことが大事でございますので。

えー……。4班の浅川さんが、どうも背中に視線を感じてる……。
よろしくお願ひしたいと思ひます。

私の自治会はですね……。田舎なもんですから、100%の方が加入しております。ただ、私は会長になりまして7年目になるんですが、親の世代の会員がおって、子供達は外へ出ている。親が亡くなると空き家になるもんですから、当然そこは自治会を辞めるというのが、実は本当の姿なんです。ところが、私が受け持った段階から1戸も会員世帯数は減っておりません。

空き家なんですけど……。私たちは“準会員”と呼んでおりますが、自治会費を毎月払ってくれる。そういうことで、非常にありがたい話なんですけども、家は誰もいないけれども、自治会費を払ってくれて、自治会員でいてもらってる。これを繋ぎ留めるのに、工夫と知恵を使ってきたというのが実態です。色々あるんですけども、ひと言で言いますと「**情報をきちんとお伝えする**」。年間八千円位の会費なんですけども、これを払ってでも、自治会に入っておいた方が、色んな情報が得られて、色んなことが分かる。留守にしても、そんなに危機感を感じない。情報をお届けすることで安心感を……。遠く離れた子供さん達に与えられているのかな、と思っております。

去年受けました講座（“広報紙の作成”がテーマ）で学んだことを、今、使わせていただいております。広報紙なるものを簡単に作って、留守にされてる子供さん方にもきちんと届ける、ということをやらせていただいているのも、「手」でございます。

なんか、あんまり……。あの、いい話じゃないかも知れませんが、そういうことを一生懸命やっております。



はい、ありがとうございました。

「情報をきちんとお届けする」ということが加入促進に役立っている、というお話でございました。「どういう情報を？」っていうのがですね、次にまた来るんでしょうけども……。

それでは、もう、お一方……。3班の山口さん。

今回は事前にレポートを用意して下さっているという風にお聞きしてはおりますけども……(笑)。

**自治会費を払ってでも
「自治会に入っておいた方がイイ」と
思ってもらえる活動を！
(ex. 地域情報の提供)**

えーっと、まだ会長になって2年目で・・・88%前後が加入率なんですけども、あまり数にこだわらない方がいい、と思うんですね。1人、2人の・・・むしろ「この人は入ってもらったら絶対困る！」っていう・・・(!)だから静かにジーンとして・・・向こうから「入れてくれ」って言われん限り、こっちからはもう・・・。

ま、そんな例もあると思うんですよ。だから私としてはもう、88%位を何とか維持していければ、それで十分、自治会活動はやっていける、と。勿論、市の広報紙・県の広報紙・・・市民・県民には変わらないから、配布はしている。そういうことで、私が今、特に力を入れているのは・・・「助っ人隊」っていうのがありまして。当然、未加入者に対しても、生活の手助けをしています。そういったことで少し「自治会の地域活動の良さを分かってくれよ」という気持ちもあります。

それとですね、年に5～6軒が新規に転入して来られる。だから、班長さんに言ってる。家が建ったら、大工さんに聞けばいつ頃入居ってのが分かる。この人達は「絶対逃すな」って言うてるんですね。自治会では、**ようこそ鶴の尾へ**という・・・そんが良かところでモなかとですけど(笑)、転入者への資料を作っとるんですよ。これにはですね、

- * 自治会加入のお知らせ(市自治振興課作成)
- * 鶴の尾町の見取り図
- * ごみステーションの位置図
- * 長崎市のごみの分け方(市廃棄物対策課作成)
- * JR列車時刻表
- * 県営バス時刻表(国道・団地内の双方)
- * 東長崎地区電話帳

一応これを全部入れて・・・班長会では班長さん達に言うとります。「向こうから挨拶されるよりも、こっちから先に挨拶せろ」という風なことを。やっぱり、不安いっぱい転入してくる・・・そこで、自治会の方から「ようこそ」って感じで、両手広げて言われると、絶対「入らん訳にはいかん」という気になりますから。転入者セットをエコバックに入れて持って行ってもらう。とにかく**新規で入って来られる方については「絶対逃すな」と**。

後はとにかく・・・まあ色々あるですね。本当、もう少しどうにかならんかっていうところで。私達の年代の人が、地域の重要性に気付いとらんというところでも、愕然とするところもあるんですけど。先日は・・・「助っ人隊」っていう生活支援をするのがあって、6ヶ月位看病した拳句にご主人を亡くしたおばあちゃんがいて。6ヶ月間手を入れとらんから、庭も植木も草ボウボウしとる訳ですね。家で初七日をせんば、ということで、草むしりなんかを皆でしたんですけど。そういう訳で「やっぱり自治会には入っとかんば、いかんよね～」という風な雰囲気、キツイけど今、作っとかんばいかんやろうと。



まあ、そういうことでですね、あまり数にこだわったらロクなことがない、と。うちの自治会でも苦い経験があるんですね。未加入者に・・・促進なら良かったが、加入を強制したことがある訳です。共益費という問題で・・・私が会長になってから返しはしたんですけども。そういったことで数にこだわったら、私自体がキツイ、と。だから何とか88%前後を維持していく、ということで、ちょっと自分を楽にせんといかん、と思っています。

ありがとうございました。

色々な話がありましたけれども、先程、浅川会長さんの方から、「情報をきちんと流すことが大事です」という話がありました。それを受けるような形で山口会長さんからですね、こういう情報を出したらどうかって、実際におやりになってらっしゃる。情報を通して繋がりを作っていくというご指摘がありました。それが一つ。

それから8割位入れば、まあまあ大丈夫なんじゃないか・・・マル印じゃないかな、という風なご指摘もございましたけれども、ポロッと本音です。『入ってもらったら困る人もいる』と（苦笑）・・・本音が出てましたけれども。



そこでやっぱり“任意”ということが出ておりました。いっそ、“加入義務”にしたら苦労せんのになあという発想も、実は全国にございましてですね。よく調べたら・・・私が知ってる範囲では、全国で一つ、自治会への加入を義務付けているところがありました。長野県の小諸市・・・浅間山の近くで、人口が4万3千位で、世帯が1万7千位。丁度、島原市と同じ位の大きさでしょうか。そこが実際やってるんですね。今年の4月から条例をスタートさせました。ただ、罰則規定なしです。今後どうなるかですね、注目されておりますが。強制加入条例を作っているのは、ここ位じゃないかと思いますが、加入努力義務を課している条例を作っているのは、幾つもございます。例えば京都市もそうですし。お役所はそういう形で、全員加入すれば、こんな苦労せんでいいのにと思ってた方々は、実は全国たくさんいらっしゃるんですが。

ところがよくよく考えたらですね、こういう風に機械的に入らなきゃいけないとなると、益々もって、中身が問われてくるんじゃないかな、と思います。「この地域に住んでるばかりに」なんて、負担感や不満感ばかりが出てくるのであれば、「こんな町に住みたくない」ということになりますので、やはり加入してもらえよう努力というのは、いずれにしても大事なんだと。自治会のあり方を魅力的にしていく努力というのは、いずれにしても必要なんだと思います。

＜＜課題＞＞

「入るのが当たり前」の自治会から
「選ばれる」自治会へ・・・



そこです、いくつかご指摘がございましたPRのあり方・・・これが話題になっておりますけど、今一度振り返っていただきたいのは、本当に“開かれた自治会”になっているかどうか、ということですね。つまり自治会が自治会たる所以ってというのは、先程ございましたけれども、地域における重要性というか、地域を代表しているかどうか、もう一度考えてみる必要があります。

「開かれた自治会」とは・・・

✕ 「加入を拒んだことはない」と
未加入者を責める発想

○ 未加入者の声に耳を傾け、
色んな事情を理解し

その声に応えていく

ここで“開かれてる”という言葉を使わせていただいているんですが、実は“開かれてる”というのは、「加入を拒んだことはないよ」という風な話ではなくてですね。「何で入らないんだッ」という風に未加入者を責める発想よりも、未加入者の声に耳を傾けながら、色んな事情を理解して、そして“応えていく”という努力の積み重ねがあって初めて、住民が“開かれてる”という風に感じるのではないかな、という気がいたします。

また、この“入らない理由”。私なりに見ていったら、実は3つのことに集約されるんですね。1つは「**負担感**」。既に皆さんからご指摘がございましたが、役員になる負担感。体力的にも負担だ、というですね。それから「**損失感**」。会費、労力、それから時間・・・こういったものが失われていく。それから3つ目に「**不満感**」。色んな人間関係を含めた不満感や不快感というんでしょうか。どうも、こういった思いがアンケートや主な未加入理由の中から見えてくる。

実はこれ、全部ひっくり返せばいいんです。どういうことかと言うと、私共が消費行動に移る時ですね、どういう店にお客さんが行くのか、どういう販売をすればお客さんが来るのか・・・実は3つ言われていることがあるんです。全くそのまま当てはまるんですが。1つは「便利」かどうか、つまり「**便利感**」。2つめに「**お得感**」ですね・・・ちょっと“お得”。それから3つ目に「**安心感**」。

それで自治会はどうなっているのかな？主な自治会未加入の理由を見てみますと、丁度これ、反対になっちゃってるんですね。「便利感」じゃなくて実は「負担感」が出てきちゃってる。それから「お得感」じゃなくて「損失感」になっちゃってる。「安心感」じゃなくて「不満感、不快感」が出てくるという・・・これ、逆になってるんですね。だからこれをどこかでひっくり返していく。

「**便利感・お得感・安心感**」
みたいなものをどこかで打ち出せないだろうか、という風なことが出てくる訳でございます。



そこで改めてですね、地域に開かれているという視点と、もう一つ、自治会の最終的な目的が「住みよいまちを作ること」であればですね、もう一つ、そういうものと併せまして、他の関連団体・・・民生委員さんや消防団、医療・介護関係、或いはNPO、育成協、学校・・・自治会以外で地域づくりに頑張ってもらっしゃる組織がございますので、こういう団体と手を結んで、協力しあえる環境を作っていく。するとですね、それぞれの団体にくっついてらっしゃる住民の方も取り込むことが出来る訳ですね。こういう関わり・・・
「開かれて」なおかつ「連携」をしていく。そして、その中で「便利感・お得感・安心感」をどれだけ提供できるか、といったあたりがですね、どうも大きな課題のような気がいたします。

いずれにしても、私達が住んでいる地域が魅力ある地域になっているのか、ということと、そこに魅力ある自治会があるのかどうか、ということは、実はイコールではないかな、という気がいたしますけども。これからですね、第2部、第3部がありますけど、第3部はですね、それぞれグループごとに知恵を出し合っていただくことになろうかと思えます。その時に考える道筋として、“**開かれてる**”こと、それから他団体との連携、という中で「便利感・お得感・安心感」をどれだけ提供できるか、というですね。こちらあたりが、これからの自治会の一つの方向性になっていくのかな、という気がいたしておりますが・・・「いや、実はそうではないよ」というご意見も大歓迎でございますので、色んなご意見をいただきたいと思えます。



この辺でそろそろ、この「白熱教室」は・・・“白熱”したのかどうか分かりませんが（汗）。再度ですね、「主な未加入理由」について私なりに思うのは、「地域に自治会がない」と・・・こんな声を絶対出させないよう、色んなアピールをやっていくこと。それから“負担感”ですね、「忙しい、面倒くさい」・・・特に役員につきましては。先程一つ、対応策が出ておりましたけれども、忙しいからこそ、実はこの会に入っておくことのメリットというんでしょうか、そういったものを打ち出せたらいいな、と。“**負担感**”を“**便利感**”に変えていくという。

それから「メリットが分からない」「現状で困らない」ということがございますけども、いや、加入してると非常に便利なんだと、これこれ「お得なんだよね」という風な何か、魅力として出せたらいいな、とですね。

それから、よく「一時的だから」「いずれ転居するので」という、かなり後ろ向きな意見もございますが、一時的な加入にも何かメリットが付けられないだろうか、とかですね。短期加入でも「こんなイイ事があるんだ」という風なPRが何か出来ないだろうか、と。

あと、自治会役員とのトラブルというのもございますけども、それこそ正に“開かれた自治会”に向けて、むしろ私達自身が振り返らないといけないことかもしれませんが・・・。

あと、入会しないことのデメリットみたいなことも、どこかで示していくということも必要なのかな、という気がしております。時間が来ましたので、これはまた、後ほどの議論に繋げていきたいと思えます。

「白熱教室」終了

Chapter 4 若者との対話

～市内5つの大学から19名の学生さんが参加してくれました～

人間環境学科 (長崎総合科学大学)

地域には自分達から声をかけ、1度きりでなく継続して、各地域に根ざした活動を行っています。

クックベジ サークル (長崎県立大学シーボルト校)

自分達で耕し、手入れして作った野菜で、料理教室を行っています。

少年警察ボランティア (活水女子大学)

対象となる少年のいい所さがし、良いお手本になる、心を整える、の3点を大切にしています。



BBS クラブ (長崎純心大学)

様々な問題を抱える少年達のお姉さんとして向き合い、その立ち直りを助けるボランティアをしています。

落語研究会 (長崎大学)

落語や爆笑漫才で地域のお祭りを盛り上げます。

やってみゅ〜でスク (長崎大学)

“U-サポ”という、市内7つの大学が連携し、学生が地域活動を行う仕組みがあります。登録いただいた地域(応援団)に学生を派遣します。

ハモネピアサークル (長崎大学)

- ① アカペラを長崎に流行らせよう
- ② アカペラを通して地域交流をしよう

という2つのコンセプトで日々活動しています。

※アカペラ・・・楽器を使わずに声だけで音楽を奏でるもの

フリートーク



それではフリートークを始めます。

今から幾つかの質問をして、学生の皆さんのお考えを伺いたいと思います。

お手元のスケッチブック、もしくはマル・バツ（手）でお答えください。



受講生の皆さん、いかがでしょうか。

（第1部の）活動紹介をご覧になっての感想、または、活動について聞いてみたいこと、何でも結構です。お手を挙げて・・・北村会長、どうぞ、よろしくお願いします。

Q

（北村さん）私は、白木と愛宕の町の間にある新しい団地で「セラーリオコート」というところの自治会長です。実は6月頃だったでしょうか、行事のお手伝いをお願いしたくて、長崎大学のやってみゅ〜でスクに登録をさせていただきました。すぐに登録確認の電話があつて「希望に添えるかどうかは不明」というお話だったんですが、その後、全く音沙汰がなく、そのまま、我々の行事は終わってしまいました。この辺の仕組みがどうなっているのか、お尋ねしたいと思います。

こうしたお話は学生さんに直接行く訳ではありませんので、その辺は、事務局にお尋ねした方がいいかもしれませんね。

財先生（長崎大学やってみゅ〜でスク担当の准教授）、今のお話はいかがでしょうか？

A

こんにちは。「やってみゅ〜でスク」の財（たから）といいます。
よろしくお願ひします。その時のいきさつが、今、よく分かりませんので、
ちゃんとしたお話ができるかどうか分かりませんが・・・。

一般的に、応援団の皆さん（自治会、自治体、個人等）には、まず登録をしていただきます。多分、その第1段階だったのではないかとおもうんですが、「応援団として登録が出来ました」というお知らせを、1日～2日のうちにお出しします。その時に「こういう企画で、学生を〇人欲しい」というお話があれば、今度はそれを企画として挙げて、ホームページ・掲示板・メルマガにより学生達に情報を出して、学生達が「〇〇自治会でこういう企画があるから行ってみよう」ということで、私共に話が来る訳です。私共は、その“つなぎ”をやっているということです。

その時の状況がよく分かりませんが、本当に申し訳ありませんでした。行き違ひがあったかと思ひますので、改めて、状況をお調べしてお答えしたいと思ひます。

そして、何か企画があつて、「学生を10人位、こういう企画に出して欲しい」というお話があつた時、必ず10人行けるかどうかは分かりませんが、そうした手配を私共の方でやっているという状況ですので、ご理解いただければと思ひます。

Q：学生に呼びかけてみて、応募がなければおしまいよ、と、そういう話ですね？

A：そうですね。結果的に10人が10人「必ず出しますよ」という訳にはいかないと・・・。

Q：分かりました。ただ、そこら辺についてですね「誰もおらんよ」という連絡ぐらいは欲しかったかな、とおもうんだけど。

A：あの一、必ず締め切りを設けておまして。締め切りの3日前には「まだ来てないですよ」とか「2人来ました」とか、連絡するようにしてるのですが・・・。
すみません、本当に。申し訳ありませんでした。

その後・・・

この件については、会の終了後に、会長さんにお詫びとお話をして、ご了解をいただきました。また、当時の書類等により、次のような経過を確認いたしました。

6月13日に応援団の登録をいただき、すぐに確認のお電話を差し上げたところ、「企画は決まっているが、日程や内容はまだ定まっていない」ということでした。その後、具体的な企画のご連絡がないままに終わってしまい、ご指摘のような状況になっておりました。

こちらから再度「その後どうなっていますか」という確認のご連絡を差し上げるべきであったと反省しております。今回の件については、デスクスタッフで話し合い、より連絡を取り合うことを確認し、今後、このようなことが無いように心がけて参る所存です。

貴重なご指摘ご提言ありがとうございました。（長崎大学やってみゅ〜でスク スタッフ一同）

ありがとうございました。何やら市議会の答弁のようなことになりましたけれども(笑)。
あの、学生の皆さんへの質問もいただきたいと思ひます。どうでしょう・・・富増さん。

Q

(富増由さん) 今日、たくさん元気をもらいました。第1部の活動紹介で、学生さんから「群馬の出身です」というお話がありました。私は7月位から、長崎市のある会議に参加をさせていただいたんですけれども、「長崎市の大学には、県外から来る学生がとっても多い」という話を聞きました。ここに来ておられる皆さんの出身地をお伺いしたいと思います。

皆さんの出身地を教えてください、ということでした。県名だけで結構です。

・・・それでは上げてください。せーの、ドン!

宮崎	長崎	熊本	熊本	長崎
中園	堀内	津志田	山下	内山
千葉	長崎	大分	宮崎	群馬
市村	東坂	泥谷	大塚	鈴木
熊本	島根	福岡	鹿児島	佐賀
片岡	鐘ヶ江	岡崎	野崎	梶原
福岡	福岡	長崎	福岡	
山田	坂本	田中	中村	

宮崎、長崎、熊本、熊本・・・。

あ～っ、長崎の方はあんまり居ないんですね!

かなりの方が県外から来られて・・・。

この件に関して何か、質問がありますか?

Q

(富増さん) じゃ、続けていいですか? 長崎に魅力があったのかなーと思うんですが、希望して長崎の大学に来られた理由を教えてください。ー会場笑ー



(笑) 偏差値とかですね、美しくない・・・魅力とは関係のない理由もあったかな、とは思いますが・・・でも、何がしか長崎に魅力を感じて来ていただいたと、私達は信じております。どうして長崎を志望されたか、もしくは長崎に感じている魅力を教えてください。・・・それでは上げてもらいましょう。せーの、ドン！

小学校の 修学旅行で 大好きになった	方言・夜景	熊本に近く 文化が 全然違う	異国情緒 あふれる ところ
--------------------------	-------	----------------------	---------------------

中園

堀内

津志田

山下

夜景	姉が同じ大学で とても充実した 学生生活をして いたため	学科の 魅力	学科の 研究内容
----	---------------------------------------	-----------	-------------

内山

市村

東坂

泥谷

人	他県には ない雰囲気	坂本龍馬	食べ物
---	---------------	------	-----

大塚

鈴木

片岡

鐘ヶ江

環境学部	長崎大学が 自分の希望する カリキュラムと 合ってた	ハモネフ サークルが あったから	講義を受けて みたい教授が いたから
------	-------------------------------------	------------------------	--------------------------

岡崎

野崎

梶原

山田

高校の先生に 「長崎は環境が いい」と 言われたから	人の心が 温かい	伝統がある と聞いて！
-------------------------------------	-------------	----------------

坂本

田中

中村

あの～・・・鈴木さん、「他県にはない雰囲気」って、どんな感じでしょう？何か違ってました？長崎は。

(鈴木さん) 観光地ということもあって、とにかく「地域の人達みんなが温かい」ということと、原爆被爆地ということに関しても、やっぱり他県とは違うのかなと。とにかく、色々な雰囲気を感じました。

その横の大塚さんは、「人」と大きく一言書いていただきましたけれども（笑）。

（大塚さん） あ、はい。長崎の人は皆さん、いい人ばかりで、僕は見ず知らずの土地に来て、皆さんが優しくしてくれたので「人」と書きました。

ありがとうございます。中村さんは「伝統がある」というご意見でしたが。

（中村さん） 鎖国時代のオランダとの交流とか、経済学部が昔は商科大学と聞いて、色々就職のことを考えた時に、伝統があった方がいいかと思って・・・。

学校自体にも伝統があるということですね。

* * * * *

他に、是非、お尋ねしてみたいようなことはありませんか？

保坂会長、お願いします。

Q

（保坂さん） ちょっと辛い質問でございますが。皆さんが大学に入学された際、オリエンテーションがあると思いますが、その際に・・・他県からたくさん来ておられますけども、長崎市には長崎市の、自治会のルールがあります。私達、自治会長をしていて1番の悩みは、学生さんばかりではないんですけど・・・ごみ捨てのルールをですね「自分は自信を持って守ってる！」っていう方（会場爆笑）、どの位いらっしゃるんですか？

それともう一つ、不動産業者や家主さんを通じてお話があるかと思えます。そこに住むからには「自治会に入ってください」もしくは自治会に入らなくても、運営に対する協力金を頂く、とかですね。そうすると、自治会としても随分助かる訳ですが、その辺についてお伺いします。

ありがとうございます。

それでは、自治会のルール、そして自治会のことが、一般的に若者にどの位周知されているか、ということについてお尋ねしてみたいと思えます。

2つの質問をいたします。マルかバツでお答えください。



ごみ捨てるのルール、「私は守っている」という方はマル！
 「あ～守ってなかった！反省！」という方はバツ！
 それではお答えください。せーの、ドン！



(全員、大きくマル)
 お～ッ！！すご～い！ 一会場大拍手ー

* * * * *

それではもう一つ、ちょっと意地悪な質問になります。
 「私は、私が住んでいる地域の、自治会の名前を知っている」という方はマル。
 「聞～たことがない、知らない」という方はバツ。
 思い切って挙げてください、どうぞ～！



(真ん中の大塚さん一人がマル。残る全員がバツ。)
 あ～ッ・・・(苦笑) 残念な結果になりましたけれども、この辺でご勘弁願いたいと思います。どうもありがとうございました。 一会場拍手ー

それでは、山口会長の方から・・・お願いします。

Q

(山口明さん) 今の質問はですね、私が思うに、社会へのデビューの仕方は色々あると思います。私達は自治会長として、地域にデビューしている。皆さんは違った方面で地域活動に参加しておられる。今の質問の趣旨を私なりに考えたんですけども、確かに、よその地域に対して色々なボランティア活動をやっておられる。だけど、果たして、自分が住んでいる自治会に対してはどうなんだ、というところだと思います。

色々な意味でボランティア・・・あなた達から見ればオジサンですから、かなり考え方も違うし、皆さんから見れば私達はシーラカンスか化石か（場内爆笑）、その辺りかも知れませんが。社会に対してデビューした、或いはデビューしようとしている、というところでは同じなんだろうと思うんですね。だから、そういう意味で、ボランティアはドンドンやってもらいたいし、私達も見直さなきゃいけないところがあるんですけども、皆さんと一緒にですね。

だから、「自分達が住んでいる自治会に対して」というところを考えてもらう。それから「よその自治会にも」という風に目を向けてもらえば、もっといい活動が出来ると思います。

それから質問が一つあるんですけど、どうしても「卒業してからどうなんだ」と。長崎は県民所得も低いし・・・(笑)、しかし、魅力があるんですよ。だからやっぱり、残ってもらって、経験が無駄にならないようなことをせんといかんのですけども。

活動をやってみて、去年の自分と、どう変わったか・・・変わった実感があったのかどうかをお答えいただきたいと思います。

それでは、学生の皆さんにお尋ねします。

「活動を始めてから、自分が変わった、良かった」という思いを、お書きください。



そろそろ出していただきましょう。せーの、ドン！

地元よりも 愛郷心が できた	施設や裁判所等 に通ったり生活 している子ども がいると知れた	子どもに 話しかけ やすくなった	子どもたちへ の考えが 深まった
中園	堀内	津志田	山下
積極的に子ども達 に話しかけたり、 関わっていき るようになった	食物を育てる ことで大変さや 美味しさが 分かった	様々な年代 の意見	責任感
内山	市村	東坂	泥谷
人前でしゃべ れるようにな った？	夢の実現に向け て努力するよう になった！	人見知りの 克服	人前で話せる ようになった
大塚	鈴木	片岡	鐘ヶ江
お客さんの 拍手の ありがたさ	人前で歌うこと が恥ずかしく なくなった	人前に立つ ことが楽しく なった	人前に立つ時 友人と一緒にだ たら心配ない ことを実感した
岡崎	野崎	梶原	山田
ハモネピアに入 って、人とつな がることの大切 さに気がしまし た	色々な人と の付き合い	ハモネピアに入 って地域交 流をたくさんす るようになって 人とのつながり を大事にしたい と思った	
坂本	田中	中村	

「地元よりも愛郷心ができた」というのがあります。嬉しいですね。
「話しかけやすくなった」・・・いいですね・・・「責任感」！
ちょっとお話を聞いてみたいですね。泥谷さん、いかがでしょうか？

(泥谷さん) 高校までは、自立してやってるつもりを生徒会とかでも、やっぱり親や先生の関与があって助けられてたんですけど、大学になって、自分達でサークルを運営していく中で、特に「クックベジ」で野菜を育てているので、誰か1人でも水遣りを忘れてしまうと、そこで駄目になってしまいます。そういうことを通じて、自分の行動に責任を持つ(提出期限を守るとか)、そういうところが成長できたかな、と思います。

素晴らしいことですね。

皆さん、この中で多いのが、“人見知り”的なことが多いようです。

「人前に立つことが大丈夫になった」・・・どうでしょう、皆さんは何か、そういうのは得意そうだったんですけど（笑）、鐘ヶ江さん（第1部で漫才を披露）いかがでしょうか。

「人前で話せるようになった」・・・実はあんまり好きじゃなかった？

（鐘ヶ江さん）元々は話せなかったんですけど。

どうです？話してみて・・・まだちょっと、緊張します？

（鐘ヶ江さん）まだちょっと、緊張します。

まだちょっと緊張します（笑）！落語研究会としては・・・（笑）！！

これからドンドン克服していくということで。

自治会も同じなんですよね。人が人に声掛けをする時、（女の都西部自治会の）小田さんのところでは、「あいさつ運動」っていうのをやっていますけども、一言、最初に声をかけるのは恥ずかしいですよ、私もやってみたんですけども。「この人、あいさつ返してくれる人かなー」と思いながら、頑張って朝から「おはようございます！」って言うんですけど・・・。

何かこう、今の話の中で聞いてみたいことはありますか？

* * * * *

新しい質問でもいいですけど・・・あっ、山下さん（2班）！

山下さんの自治会ではこの間、お祭りに学生さんに来てもらったんですよ。

いかがですか。第1部の発表をご覧になっての感想を含めて。



Q

(山下さん) ダイヤランド3丁目の自治会ですけど。皆さんのお話を聞いて、感動しました。若い人達がこんなに頑張ってるんだな、と。うちの自治会も夏祭りに、南小学校の3～4年生が「よさこい」をしたもんですから、長崎大学の「突風」の皆さんに何人か来ていただいて、後ろで応援をやっていただきました。

で、つい最近ですけど、敬老会をしまして。今日はお見えになっておりませんが、長崎外国語大学のフラメンコの方に、綺麗な女性が2人来ていただきました(会場笑)。普通は踊りとか詩吟とか、そういうのばかりなんですけど(会場爆笑)、会長が「同じことをするな」と言うんで、思い切って学生さん達にご相談して。何を要求した訳ではないんですけど、フラメンコの方が2人来られました。もう、衣装を見ただけでドキドキして(笑)。フラメンコっていうのは、こう、ガタガタって踊るもんですから、ふれあいセンターのステージを壊したらいけないんで、コンパネを十何枚持って来まして、みんなでこう、老人衆と一緒に貼らせて、踊ってもらいました。

普通はお酒を飲みながらで、あんまり聞いてないんですけど、この瞬間はですね・・・僕は写真を撮ってたんですけども、すごかったです。80～90代のおばあちゃんですね、こうやってもう・・・(目をキョトキョトさせる；会場爆笑)すごかったです。それにも感激したし、勿論、その2人の方に僕もドキドキしながら見てましたけど。

その時「あーいいな！」と。こう、若者達と僕達と一緒にやるのもいいし、多分、参加された女子学生2人もですね、人生の中のちょっとした思い出になって、卒業してどこかに行かれた際に、その時のことを思い出してもらって、活動を続けていっていただいたらいいな、と思います。

僕は質問はありませんけれど、皆さんが長崎に残るか、よそに行くか・・・確率としては、よそに行ってしまうので、こういう活動を通じて、長崎を思い出して、自分達も大人になったら、同じように地域の中で、「出来る人が、出来ることを、出来るだけ」って・・・もう、無理は言いませんので、頭においてもらって、是非、活動して欲しいなと思いました。

ありがとうございます。

—会場拍手—

今のお話の中に、卒業後も活動を続けていくかっていうことについて、ちょっと出ましたけども、学生の皆さんにお尋ねします。

今のままの活動を続けるっていうことだけじゃなくて、「自分は卒業後も今の活動を活かせる」と思う方はマル。「ちょっと無理かな？」と思う方はバツを挙げてください。

せーの、ドン！

(全員マル)

—会場拍手—



あー皆さん、やっぱり、そういう風に思っただらっしゃる。
それではちょっと、聞いてみたいんですけども・・・純心大学の山下さん。
卒業後に活かせるとしたら、どんな形で？

(山下さん) 私が純心大学に来たのは、小学校の教員を目指してて、免許を取得するためです。それで今、児童養護施設や障害のある子ども達と定期的に関わるボランティアをしてるので、今、私が色々な経験をしてることで、将来関わるであろう子ども達に伝えられることがたくさんあると思うし、自分が親になった時にも活かせる事がたくさんあるかな、と思います。

ありがとうございます。もうちょっとお聞きしてみてもいいでしょうか・・・坂本さん？
坂本さん、いかがでしょうか。今、皆さんで一つのことを作り上げて、人前で発表して・・・
それも地域に出かけて行って、地域を盛り上げるという活動をしてらっしゃいますが、
今後活かせることって・・・。

(坂本さん) ハモネピアに入って、このグループで活動するようになってから、人と繋がることの大切さに気付いたんで、これから先の人生でも、人との関わりを大切にしていきたいなと思いました。

素敵なことですね。・・・中村さんはいかがですかね？

(中村さん) 将来アナウンサーになりたいんで、うちの部長はメチャクチャ喋りが上手いんで、それを学んで、将来役立てたらいいなと思います。

あー・・・(納得)！私が中村さんを「印象的だな」と思ったのは、話す時にちゃんと目が合うんですよ。人と話す際に、きちんと目を合わせて話が出来ると、グッと近づける
ところだと思います。

アナウンサーに・・・なれるんじゃないでしょうか。皆さん、いかがでしょう？

—会場大拍手—

ありがとうございます。

* * * * *

そして、いかがでしょう。感想だけでもいいんですけども、皆さんの方からお聞きになりたいようなことはありませんか？

もし無ければ、私の方から是非、皆さんにお聞きしたかったんですけども。
活動のきっかけ・・・活動に一步を踏み出す“きっかけ”があれば、教えてください。

それでは、挙げてもらっていいでしょうか。せーの、ドン！

入学時の説明	先輩に誘われたから	説明を聞いてイメージが変わった	先輩方が頑張っておられたから
中園	堀内	津志田	山下
先輩から聞いたから	同じ学科の先輩とたくさんお話できると思ったため	野菜を作るということに興味があったから	野菜・農業に興味があったから
内山	市村	東坂	泥谷
人からの誘い	母校の先生の影響	笑いの魅力	新しいことをやってみたかったから
大塚	鈴木	片岡	鐘ヶ江
大学にサークルが無かったから作りました！	TVに影響されて…	テレビ	友人が入ってて楽しそうだったから
岡崎	野崎	梶原	山田
先輩たちの歌に感動したから	歌が上手くなりたかったから	小学校からハモネフに出たかったから！	
坂本	田中	中村	

「先輩方が頑張っておられたから」「先輩達の歌に感動したから」・・・。

あー・・・「先輩達の背中を見て」というお話が多いですね。

結局、自治会の方では「担い手不足」ってよく言われるんですけど、活動を頑張って、そのバトンを次に繋げていきたいと、皆さん、考えてらっしゃると思います。

学生の皆さんも、今やってる活動が次の世代に繋がって欲しいし、自分自身の活動を始めるきっかけも、先輩達の背中を見て、ということで・・・。

それでは内山さんに、ちょっとお話をお聞きしてもいいでしょうか？

(内山さん) 私が純心BBSの活動に入ったのは、先輩から活動のことを聞いて、自分は将来、子ども達と関わる仕事に就きたいと思ってたんで。自分が入ってる学科は実習が無くて、子ども達と直接関わる機会が欲しいと思ってて・・・丁度、先輩から聞いたんで、入りました。

ありがとうございます。

皆さんの話をお聞きしてて、若い皆さんも「繋がり」とか、実際に人と会うコミュニケーションを大切に考えておられるのかなーと思いました。

ここでちょっと、中野先生の方から質問があるということでした。先生、お願いします。

Q

(中野先生) お疲れ様でした。長崎ウエスレヤン大学の中野です。皆さん方の活動を、非常に興味深く、拝見させていただきました。もし、うちの大学が長崎市にあったら、是非、皆さんのお仲間に入れさせていただければ、と。ちょっと遠くてもね、関わりを持てたらいいなと思いました。

一つだけ、限られた時間での発表でしたので、活躍してる場面のご紹介でしたけど、一方で、活動をやってて悩むこと、「これ、困ってるんだけど」みたいな活動上の課題とかね。問題、悩み・・・それがあれば是非、聞かせてください。

それでは、活動をする上での悩み、困ったこと、やりにくさ、“つまづき”ですね。学生の皆さんにお伺いしたいと思います。



それでは挙げていただきましょう。せーの、ドン！

活動時の 段取り	・人数が多すぎる ・子供との関わり方	時間割り	子どもとの 関わり方
-------------	-----------------------	------	---------------

中園

堀内

津志田

山下

学習指導だけで なく、他にもコミ ュニケーション をとりたい	行事が多くて 計画・運営が 大変です	忙しい	野菜の育て方 が、いまいち 分からない
---	--------------------------	-----	---------------------------

内山

市村

東坂

泥谷

学生が 少ない	少年達に対し て本当に寄り 添えているか	人数	うらでの 仕事
------------	----------------------------	----	------------

大塚

鈴木

片岡

鐘ヶ江

練習場所が 少ない	練習場所に 恵まれない	練習場所	練習場所が 限られている
--------------	----------------	------	-----------------

岡崎

野崎

梶原

山田

練習場所が 少ない	練習場所	練習場所
--------------	------	------

坂本

田中

中村

「活動時の段取り」「裏での仕事」「裏が多くて」・・・あーそうですね。

「練習場所が少ない」それは確かにそうですね。

あの一華やかな発表のその前の、段取りやら時間調整やら、企画の段階でも困ってらっ
しゃる事が随分ある、ということ。

皆さん、どうでしょう。これについて何か・・・浅川会長、お願いします。

Q

(浅川さん) 式見下浜自治会の会長をしております。実はこの企画（やってみゆ〜でスク）は随分前から聞いているんですが、中々、応援団としてエントリーが出来てないんです。

その原因の一つは、皆さんが、どの段階から参加してくれるのかな、ということなんです。例えば漫才やアカペラをしていただくとして、何時から何時まで喋ってください、歌ってください、ということだけなんではないでしょうか。それだけだと、地域との触れ合いってというのは、どこにあるんだろうと思うんです。全員の方からじゃなくて、どなたかだけのお答えでも結構なんですけど、多分、色んな事前の準備や企画とかから入っていかない限りはですね、実際の触れ合いは出来ないだろうと思うんですよね。

その辺りのお考えと、どの辺から入って行かれるかっていうことをお聞かせいただきたい。・・・実は不安を感じてるもんですから、応援団の登録をしてないということなんです。そこをクリア出来れば、参加していただきたいことがたくさんあります。

(長大・中園さんが挙手)

A

「大学生に来て欲しい」という依頼は様々なんですけども、例えば先程の「ハモネピア」とか「漫才」だけをして欲しいということで、「こういう企画があるから、この時だけ来て欲しい」という話を持って来られる方もいらっしゃいます。

今年の12月に島で「デジタルシェ」という催し物があって、企画は長崎青年協会なんですけども、企画段階から学生の意見が欲しいということで、定期的に会議に参加させていただいております。学生なりの意見を「ここは、こうした方がいいんじゃないか」とかですね。また、ただ企画に参加するだけじゃなくて、当日も、青年協会のスタッフさんと一緒に、メインスタッフとして、他のメンバーを動かすという立場に立ってもらうという風なことも出来ます。あらかじめ、動く段取りや場所を、詳しく説明していただければ、こちらもドンドン動くことが出来ます。

それから今、長崎大学でよく言われてるのは、自治会から持って来てもらう話ばかりじゃなくて、学生側から「こういう事がしたいから」という提案も出来たらいいな、ということです。そんな風にお互い積極的に、ドンドン歩み寄れたらいいなと思っております。どうぞよろしくお願いします。

今回ですね、今日の、こういう風な講座を整える段階で、随分前から学生の皆さんにメールや電話等で「どういう風にしたらいいかな、順番はどうしたらいいかな？」ということをお話しながら進めてきて、本当に心強くて、感謝でいっぱいでした。

ありがとうございます。

そういう風に要望に応じて、「その日を盛り上げて欲しい」というのもありますし、その前から参加して欲しいというところに応じていただく、そこをコーディネートできるのが「U-サポ」の事務局ではないかな、と思います。

* * * * *

(長大・財先生が挙手)

A

「Uーサポ」について、ちょっと補足をさせてください。

今日お見えになってない大学・短大の学生さんを含めまして、今、7つの大学で「Uーサポ」という形を組んでますけれども。時間的には9時半から5時半位まで、色々な話をお受けしております。

自治会の方の場合は、直接事務局においでになって、色々な細かい話や打ち合わせをする、ということもありますし。お電話で、例えば「ハモネピアに今度、来てもらえんやろうか」という話をいただくこともあります。

ただ一つですね、北村会長も言うておられましたけども、せっかく機会を与えていただいたのに、お応えできないというか、ご要望に添えないことも結構あるんですね。と言いますのは、学生は学問が本分ということがありますので、試験の時期は当然、活動出来ませんし、平日は8時半から5時半まで授業をやっておりますので、時間帯によっては、中々難しい。

実は今度の月曜日に、大変良い企画が3つ入ってたんですけども、学生に呼び掛けでも、平日の昼間ということで対応できずに「申し訳ありません、今度には行けません」ということで、お断り申し上げるんですけど、こういう時が1番・・・申し訳なくて、言いにくいんですね。1人でも居ればもう、「1人おりましたよ！」とニコニコして言うんですけども（会場笑）、1人もおりませんというのを、私達スタッフは5人おりますけども「どんがん言おうか（汗）」と、相談し合うこともあります。

そういう風に、お応え出来ないこともありますけども、「応援団」という形で登録していただいておりますと、何かあった時にお声掛けいただければ、お応え出来ることも結構ありますので、是非ご利用いただければ、と思っております。

調整も私共がですね・・・この話は、このサークルに呼び掛けるのが1番いいという判断なんかも、私共の方でいたします。「この学生さんがこれに向いてるかな」とか、「この前、企画をしたって言うたね」とかいうことを考えて、その学生さんに「行ってみんなか」とメールしたりですね。

実はあさっての月曜なんですけど、そういう企画の会議について、長崎市の方から申し出がありまして「2人は欲しい」と。1月のイベントに間に合うように、11回の企画会議に出てもらえんだらうか、という。これはちょっと学生は無理なんじゃないかな、と思ってたんですけど、声掛けてみたら「行きます」と。しかも友達を連れて来るっていうんで、4人もですね、市の企画会議に行くことになりました。

そういうこともありますし、逆に「申し訳ございません」ということもございますので、そこも是非ご理解の上ですね、（言葉は悪いんですが）ご利用いただければと思っております。

学生達もこんな風に、気持ち良くですね・・・全然「仕方なし」ではないんです。気持ちよく来てくれますし、短い時間ではあるけども、地域の方と交流が出来たと、喜んで帰って来たりしております。是非、学生の社会性を培う上でも、私共にお力をお貸しいただければと思います。よろしくお願ひします

ありがとうございます。

それでは富増（清）さんの方から・・・。

Q

（富増さん）手続きの問題で、少しモヤモヤしてたんですけど、今の説明で、ほぼナゾは解けました。要は「事務局が窓口になるから、窓口になんでも言ってきなさい」ということだろうと思うんです。自治振興課が作ってくれた資料に「地域での学生の力を必要とする際に、ご連絡ください」って、各団体の直接の電話番号があるから、「これは何なんだ」と思っていたんですよ。これは直接、シーボルトの方に話をしているのかななんて思ったんですけども、そういう合理的なケースは、事務局から直接話してもいいですよと、そういう説明がありましたので、あれで大体納得いたしました。

A

（財先生）あの一「U-サポ」という形で今、長崎で連携してますけども、例えば地域によりましては「シーボルト校さんに頼んだが1番手っ取り早い」ということも当然あるんですね。東長崎であれば、総科大さんに来てもらった方が手っ取り早いし、これからも繋がりが出来るとか、色んなケースがありますので、「U-サポ」という事務局は私共の方でお世話をいたしておりますし、私共に入ったデータは全部、その日のうちに7大学に流してしまっ、各大学さんの方で対応されるということになります。

各大学さんの特色というか、例えば純心さんであれば、ボランティア・ビューローという、別の形のボランティア組織がありますので、当然そういう所に直接お話しになっても結構ですし、「U-サポ」事務局が全てという訳ではございませんので、その時に応じて各大学さんにもお声掛けいただければと思います。

（富増さん）ありがとうございます。



それでは、お名残り惜しいんですけども、お時間がきてしまいましたので、フリートークを終了いたします。

《フリートーク 終了》

Chapter 5 見守り・支え合い

* DVD上映

* フリートーク

フリートーク発言集

P 66

* 「高齢者を支える」っていうんじゃないで、お互いが支えあおう」という意識が必要であろうと思います。

* (高齢者に参加してもらう方法について) 餅つき大会にお誘いする際、おじいちゃん達に「孫に餅のつき方を教えて下さい」とお願いするんです。そしたらおじいちゃん達は喜んでやって来ます……。

P 67

* 自治会と老人会、仲良くせんばいかんですよ。まず先輩達の意見を聞きながら、自治会のことも説明して、そして一緒にやったら、協力してくださる方がものすごく増えてきて……。

P 68

* 何もすんなりいった訳じゃないでしょうから、そういうとこを聞かないと、「要するに団地やっけん出来るとさ」みたいな感じになるんじゃないかな……。

P 69

* やっぱり継続化となれば、誰か苦勞せんばいかん。誰かがせんばいかんということで、もう、あきらめんばしょうがないですね。ある程度は。

P 70

* やはり60歳から70歳までが自治会活動に最適かなと。そのあと私達のように卒業した人達がですね、自治会を離れるんじゃないで、お手伝いをして……輪が広がっていけば、継続出来るのかな……。

P 71

* 私自身は自治会活動が好きなんで……色々あってもですね、苦しくはない。楽しむために……自分が好きでやってるんですね。

P 72

* ずっと、この“見守り・支え合い”と民生委員とのつながりが難しいと思ってて。「どこまで話を聞き出せるのか、どこまで入り込めるのか？」

P 74

* 民生委員と自治会。自分からアプローチしてでも協力関係を築かないと……。お互い共通の部分がいっぱいあるんですよ。

CHAPTER 5 見守り・支え合い

今年3月、東日本を襲った未曾有の震災。これをきっかけに見直されたのは「地域のきずな」です。私達は地域の皆さんが手を取り合い、困難を乗り越える力強さを改めて知らされました。災害ではなくても、身の回りには、大小さまざまな困りごとがあります。そんな時、ご近所に手を貸してくれる人がいると心強いはずです。

「隣近所の付き合いでできるんじゃないかということまで有志に呼び掛けて作ったのが“助っ人隊”ですね（鶴の尾）」
「退職した時に、何か地域にお返しをしないと・・・地域のお世話が出来たら、と思います（女の都）」

「高齢の方では出来ない部分を、自分達、若い世代がやっていけるということで、充実感が得られるので（白木）」

県内には、お互いを支え合うまちづくりに取り組む皆さんがいます。そんな皆さんの活動をご紹介します。

(1) 鶴の尾町自治会・助っ人隊

まずは、長崎市鶴の尾町の取組みからです。こちらは、町内の高齢者のお宅です。網戸を修理してあげようと集まったのは、その名も“鶴の尾町助っ人隊”。日常生活の困りごとを“お助け”するために結成された町の皆さんのグループです。

「年寄りばかりで、よう体が動かんで、このまま放っておいたんですよ・・・。」

町の皆さんの困りごとがあれば、すぐに出動する“助っ人隊”。このグループを立ち上げたのは、会長を務める山口明さんです。

「一人のおばあちゃんが『お風呂場の電球が切れた』と。それでどうしたかという、1年間真っ暗なところでお風呂に入ったという風なことを聞いたんですよ。年をとるということはそういうことかと。それなら私達も、隣近所の付き合いで出来るんじゃないかと。」



その思いに共感し、集まったメンバーは現在17名。それぞれが出来る仕事で、町内の皆さんの困りごとをお手伝いしています。

「はい、終わりましたー」

「どうも、どうも」

造成から30年近く経った鶴の尾団地。高齢者の数は年々増えています。

かつて警察官であった山口さんは、朝夕の町内パトロールが日課。高齢者のお宅に異常がないか、見守っています。パトロール中に相談を持ちかけられることもあります。しかし、お手伝いを必要としているのは、人に迷惑を掛けたがらない世代。助っ人隊では、困っていそうな方にドンドン声を掛け、いい意味で“おせっかい”を焼いてきました。

「主人が亡くなりまして、もう、何にもやる気がなくてね（涙）、何にも手がかなくて、こんなしてたらね、会長さんが『何か困り事のある時にはね、何でも言いなさい。ちゃんと来てあげるから』って言ってくださったものですから、もう、甘えて・・・来て頂きました。」

「母の方を私が面倒見てるんで、時間がなくてですね。庭に草が生い茂って困ってたんですよ。どうしようかと思ってたら、会長さんに丁度、声掛けてもらって・・・。本当に助かってますよ。」

「40年位昔で言えば、隣近所でやりよったことですよ。本当は“助っ人隊”じゃなくて、隣近所の付き合いでやってけるんですよ。それが1番いいんでしょうけど。」



助っ人隊では、こんな活動もやっています。町内の皆さんが家庭菜園で作ったものを売る野菜市です。新鮮で無農薬ということもあって、人気は上々。そして何よりの魅力と
言えば・・・。

「重たかとは買う時は持って来てもらえます。

助かります。」

「不便なものでですね、こんなして貰ったら助かります。」

公園まで来られない人には、御用聞きサービスもあるんです。

「ごめんくださいーい。」

「これば茹でて、味噌汁に入れて・・・(喜)。

どうも、ありがとうございました。」

「ありがとうございました。」



利用する皆さんの笑顔と、感謝の言葉がやりがいになっているという、メンバーの皆さん。

「困っている人を助けてあげたい！」そんな気持ちで、“助っ人隊”は今日も出動します！

(2) 女の都西部自治会・ささえあいネットワーク

長崎市北部の女の都団地。ここでも地域の困りごとを、そこに暮らす皆さんが助け合っています。この日は週に1度の買い物支援の日。ボランティアのメンバーが高齢者の方と相乗りし、買い物へ出かけます。丘を切り開いて造成したこの団地は、勾配の急な坂が多く、歩いて買い物に行くのが大変です。

「若い時は何でもなかったんですけど、去年位から足が筋肉痛になっちゃって、それからお世話になるようになったんですよ。」

お年寄りにとって、日常の買い物の不便さは大きな問題です。この町でも、住みやすい他の町に移り住む人が数年前から出始めています。そんな中この取組みは始まりました。



「何か地域にお返しをしなきゃ。私も子供が2人いますけど、子供達2人も地域の人にお世話になって大きくなったと思いますのでね。退職したら、この地域のお世話なんかができたら、と思って。」

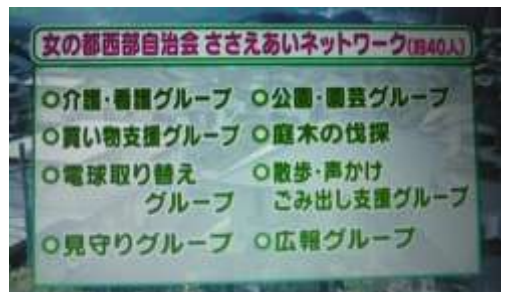
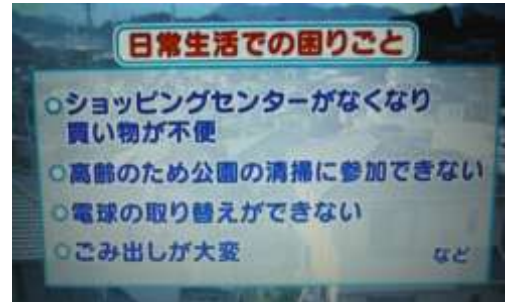
こうした取り組みが始まったのは、自治会が行ったアンケートがきっかけでした。他へ移り住む人が増えれば、町は衰退してしまう。そんな危機感から、生活するうえでの困りごとを尋ねました。一方、そうした困りごとについて、『ボランティアとしてお手伝いして貰えないか』を尋ねると、多くの方から『協力したい』という意思が示されました。

『園芸が出来る者、手を挙げろ』あるいは『ちょっとした困りごと、パッキンの取り替えなどが出来る者、手を挙げろ』とか、そういう人たちが手を挙げて、8つ位に分かれてグループを作ったわけです。」

地域に住む皆さんの助け合いの思いが集まり“ささえあいネットワーク”が誕生したのです。現在、8つのグループにおよそ40人が参加していて、地域を支える大きな力になっています。

この日はグループの一つ“介護・看護グループ”が、公民館で介護教室を開きました。

教えるのはグループのリーダーで、介護サービス会社の講師でもある水間紀子さん。教室では、ベッドでの着替えや車椅子の操作などを、実際にやってみながら学びました。



CHAPTER 5 見守り・支え合い

「突然介護をしなければならない時が起きたときに、心構えがあった方が良くと思いますね。」

「必要な方がどんどん増えていらっしゃいますし、自分達でまず、頑張ってみようという事が大事ですもんね。こういう場があると勉強になるしですね。」

「地域でお互いが気軽に声を掛け合って、『今ちょっと困ってるから、うちの親を少しの間でいいから見て欲しい』とかいうことで、地域の介護力を上げていきたいなと思います。」

自分ができることに名乗りを挙げ、楽しく活動しているメンバーの皆さん。活動を通じたメンバーや住民同士の交流によって、地域の絆は、より強いものになりました。

「それは、まちの力になる、と思うんですよ。隣同士、会って顔を突き合わせたって、挨拶もしない状況なら助け合いなんて、もってのほかですよ。こういう風に仲良くしていくことが、お互いが助け合っていけるんだと。もっともっと明るい女の都になってもらいたいと考えています。」



(3) 白木町自治会・ささえあいボランティア

続いては、長崎市白木町での取り組みです。

集まって来たのは、長崎総合科学大学の学生たち。月1回、地域の皆さんと一緒に自治会活動を行っています。

向かった先は町内の道路。
通行の妨げになるほど生い茂っている草を刈ります。
自治会と学生との共同活動は、今年で3年目です。



「いやー、いいことですわ。うん。感謝しとります、私は。
ハハハ・・・」

白木町では地域と若者をつなぐこと、そして、地域内の助け合いの輪を広げることを目的に、活動に、ある仕組みを取り入れています。
それは“地域通貨”です。

清掃活動などに参加した学生や地域の皆さんは、そのお礼として地域通貨「ペギー」が貰えます。
また、住民は、自治会が行っている古紙回収に協力すると、その量に応じて「ペギー」が貰えます。

貯めた「ペギー」は何に使えるのか？
学生は大学の地元、宿町の連携しているお店で使えます。
白木町の皆さんは、自治会行事の参加費や生活支援ボランティアの依頼に使えます。

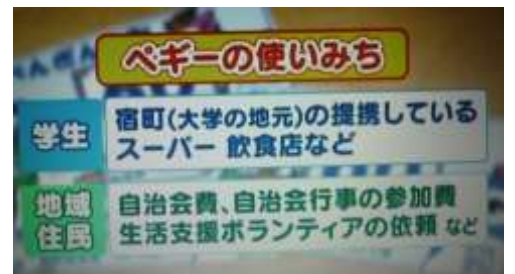
こちら、迫田さんのお宅では、「ペギー」を使って網戸の修理を頼みました。

「家が女手ばかりなもんですから、網戸の修理とか何とか、ちょっと自分では出来ないんで・・・。」

作業を行っているのは、生活の中のちょっとした困りごとをお手伝いする地域グループ“白木ささえあいボランティア”のメンバー、そして学生達です。

「自分がやっている事が人の役に立てるなら、どんどんやっていきたいなと思います。」

「卒業するまで白木の皆さんと一緒に、活動に楽しく取り組んでいきたいなと思っています。」



CHAPTER 5 見守り・支え合い

「お待たせいたしましたー。」
「あ、すみません。」
「これ、どうしたらいいですか？」
「えっと・・・」

ずっと気にかかっていた網戸をキレイに貼り換えて貰い、ほっとした様子の迫田さん。

古紙回収で貯めていた「ペギー」でお礼です。

「何かの形でお礼が出来れば、それはいいかなと思います。
そういうことがあれば、またお願いしてもいいかな、と
いう感じは持ちますね。」



困りごとを人に頼むのは気の毒だという皆さんも、この仕組みを利用すれば頼みやすくなります。
“白木ささえあいボランティア”では、地域通貨を潤滑油にして、もっと助け合いの輪を広げて
いきたいと考えています。



今回3つの地域の取組みを紹介しました。
皆さんの住む町も、同じような悩みを抱えていませんか。

『やってみようよ』という声を掛ける、リーダー的な
人がおられたら、どこの地域も出来ると、私は思うん
ですよね。」



「出来る人から少しずつ、自分が出来る範囲ですればいい
んじゃないかと思ってますけど。」



「意欲と時間さえあれば、誰にでも出来ることですから。
そういったことで県内に広まっていけば・・・」



地域を変えるのは、皆さんの“小さな一歩”かもしれません。
さあ、あなたのまちでも始めてみませんか。



※このDVDは、長崎県の地域振興課からお借りして、上映しました。



「DVD上映」終了

(4つの班に分かれてグループ討議を行い、4つの議題を決めていただきました。)
それではフリートークを始めます。
各班から議題を出していただいたんですけども・・・

《1班》

高齢者に、どうやって活動に
参加してもらおうか？

《2班》

自治会活動の、目に見えない
部分での苦悩・課題

《3班》

ささえあい活動の
継続化・活発化

《4・5班》

自治会と民生児童委員との
つながり

4班とも別々の課題が出てきましたので、まず、第1班にご説明をお願いします。

(テーマ1) 高齢者に、どうやって活動に参加してもらおうか？

テーマの説明

愛宕団地の荒木と申します。なぜ、こういうテーマになったかといいますと、各自治会から「見守り・支え合い」の現状のお話をしていただきまして、その中で、敬老会を含めてですね「高齢者の方をいかにして自治会の活動に参加していただけるか？」ということで、こういうテーマを設けた訳です。これから中身について討論をしていこうかな、としていたんですけども、“高齢者に合わせた、集会所等の改修”という話が出ただけで。

まだ話す途中でしたので、時間があれば、この件について話す機会を作っていただければと思うんですけど。以上です。



ある程度元気な高齢者ということになりますか？それとも支えが必要な側の高齢者ということになりますか？・・・どちらも含めて。それでは、このテーマに関して、どなたかご意見をいただける方はいらっしゃいませんか？・・・梶さん。

(梶さん) 稲佐の梶と申します。高齢者の方に参加していただくというのは、高齢者に対する行事に参加していただくのか、例えば小学生や幼稚園の登下校の見守りの時とかに、生きがいとして参加を求めるのか、どちらの観点でされたか、お聞かせ願います。

(荒木さん) はい。うちの団地はものすごく高齢化が進んでおまして、先程4人に1人が高齢者という話がありましたけど、そうじゃなくて、うちの団地はですね、2人に1人、65歳以上がもう50%超えてるんですよ。だから、そういう中で、高齢者を支えるっていうんじゃなくて、お互いが支え合おうという意識が必要であろう、と。

1人でも多くの高齢者に色んな活動に参加していただいて、「お互いを知る」ことが、まず第1歩になるかと思いますので・・・そういう意味です。よろしいでしょうか？

(梶さん) はい (了承)。

この件に関していかがでしょうか・・・市山会長、どうぞ。

(市山さん) 青山自治会です。先日、23日に日帰りで雲仙に行って参りました。これは、もう殆どが65歳以上の高齢者の方々です。だいたい60名ぐらい。これは費用が伴いますから、2年に1回ぐらい企画してるんですけど、お年寄りの方から『会長さん、何とかして毎年出来んだろうか?』と言われてまして。そんならやってみようということで、去年も行ったんですけど、今年も12月23日(勤労感謝の日)に予定をしています。

その費用の件ですけども、私のところは古紙回収をやってます。新聞とか、雑誌とか、段ボールとか。だいたい世帯数も500を超えますから、毎週火曜日・・・月に4回ですね、そこで利益を上げた分を、この旅行に充ててるんです。お年寄りのために、ということで。これ、若い方も参加していいんですけど、今回の旅行では・・・そうですね、30代の方々が子供さんを連れて、2～3名参加してたようでした。

そのような行事を組むことによって参加があるし、今年は12月25日ですが、餅つき大会を毎年やってます。その時に呼び掛けるのが、おばあちゃんたちに『餅のちぎり方を教えてください。』と。若い方も来るんですけど、中々、ちぎり方が難しいんですね。で、おじいちゃん達には『孫に餅のつき方を教えて下さい』と。そしたら、おじいちゃん達は喜んでやって来ます。それでも、私が心配して『つかなくていいんです』って止めるんですけど(笑) やっぱり・・・もう88歳の米寿を過ぎたおじいちゃんがいらして・・・もう一生懸命つくんですね(爆笑)。私は心配で止めるんですけど。

やっぱり、そうすることによって、お互いに子どもから3世代の皆さんで知り合う・・・これが自治会の活性化、町の活性化につながっていくんじゃないかな、と私は思います。そのような行事をやれば、結局こう、集まって来るようですから・・・そんなことで参加をして貰ってます。以上です。

ポイントとしては2つ・・・自分達で汗を流した、その対価で楽しむということが1つ。もう1つは、ただ楽しみに来るんじゃなくて、『お知恵を拝借させてください』みたいな、そういう誘い方があるということですね。ありがとうございます。



(松島さん)ダイヤランド第3自治会の松島です。私は会長になって2年目なんですけど、まず最初に取り組んだのが高齢者の件です。自治会ももう、少子高齢化の時代になるんで。

まずは老人会が各自治会の中にありますが、老人会の歴代幹部の方と、自治会の執行部とで懇親会をしたんです。『まず話し合いをしようよ』と。そこで、どんなことをしようかとかいう話をして、それをしたことで、老人会がめっちゃ(!)自治会に協力的になったんです。

やっぱりお互いによく知り合うことから始まる。自治会と張り合ってるところの老人会もあるみたいですが(場内爆笑)、仲良くせんばいかんですよ。自治会長経験者が老人会役員になってるところもあると思うんですが、まず先輩達の意見を聞きながら、自治会のことも説明して、そして一緒にやったら、協力してくれる方がものすごく増えて、餅つきにしても何にしても「高齢者自体の活動だ」みたいな感じになってきたんですよ。そういうのも1つのやり方かな、と思います。

ありがとうございます。大切なお話でした。

(テーマ2) 自治会活動の、目に見えない部分での苦悩・課題

テーマの説明

同じような・・・ダイヤランド3丁目の山下です(笑)。今の老人会の話で。僕は、違う町の老人会に、時々特別参加をさせてもらってるんですけど、いつも不満に言われるのは「自分達の思いを自治会が聞いてくれん。『会議をしてくれ』って頼むけど、全く聞いてくれん。」ということです。うちの3丁目はこんな風で・・・まず飲み会からですけど、それから色んな要求が出てきますね。

先程紹介された“草刈隊”も45名のうち半分以上が高齢者の方です。その方々が朝早くから・・・7時とか8時に、もうみんなニコニコで、「やるゾ〜！」って感じで来るのを見るとですね・・・僕は別に若者じゃないですけど、あの人達から見れば若者ですから・・・「頑張らんばいかなー」と、いつも感じます。私達3丁目の場合は、いつも高齢者の方から力をいただいているっっちゃう感じで、どうやったら活動に参加してもらえるかな、というのがありますけど、とにかく高齢者の力で成り立っているのかなあということを含めて、班で話をしました。

DVDで3件ほどご紹介がありましたけど・・・つまり“団地”ですよ。ダイヤランドもそうですけど、40歳代で家を買われて、そこに住んでいる、と。ダイヤランドの場合は99%近く自治会に入っていて、そこから出発していますんで、自治会員が減ったとか、入らんとかいう問題は、ずっと僕らの頭の中にはありませんでした。今回、担い手講座で皆さんの話を聞いて、「えっ？嘘やろう！」みたいな感じだったんですけど、さっき紹介されたのはみんな団地で、子供さんが生まれてずっと仲良しに育ってきた人達を中心になった自治会ですから、“ささえあい”をしようと思った時に、中心になる方がそういう経験を・・・例えば育友会の活動をされたとか、そういうのがあれば比較的やりやすいんでしょうけど。(次頁に続く)

3～4つの町が集まって、高台にあったり、こっちは団地だったり、50年にもなる古くからの町だったり、そういう町で、“自治会員を増やすこと”そのものに悩んでる町が「ささえあい運動をやるなんてこと自体が、大変なことなんですよ」という発言がありまして、何にしようかと言って決まった議題がこれなんですわね。

だから、今日みえておられる山口さん（鶴の尾）とかもですね、**すんなりいった訳じゃないでしょう**から、そういうとこを聞かないと、「要するに団地やっけん出来るとさ」みたいな感じになるんじゃないかなーということで、この議題にしました。よろしくをお願いします。

「すんなりいったんじゃないだろう！」という問いかけでしたけれども、美しい事例のご紹介があった自治会の・・・山口会長（笑）。

（山口さん） いやーホント色々ありましたですね（笑）。まだ、実家の母が生きてた頃、「ひょっとして自治会長を引き受けんばかも」と母に言ったら、「うん、分かった」と。「でもね、そういった立場になれば考えとかんばいかんことが1つある。“敵半分、味方半分”と思うとかんばいかんよ。それが出来るなら、引き受けてもよかたい」と。

案の定、その通りですよ（笑）。うちの班でも、何か新しいことをやれば必ずマイナス的な発言とか、足を引っ張る動きがあつて。しかし私の性格的に、衝動的にやろうと思つたらやらんと、後はやり始めてから考えようという感じですから、ポツと行く訳ですね。

最初、色々な意見がありました。どうやってニーズを把握するのか、まずアンケートを取ったんですね。母がどんなところで不便を感じているかっていうのは分かってましたから、助っ人隊として生活を支援する側のアンケートですよ。「どんなことが出来ますか」と・・・そっちの方を主に取りました。



で、あとは訪問ですよ。だいたい民生委員さんが殆ど回ってる。私はまだ退職して2年目ですから、何も分からんということで。そしたらまず、民生委員さんと一緒に行こう、と。で、こう、髭なんか生やしとるもんですから、うさん臭くは見られるんですけど(笑)、結構目立って、良かった感じもあるかも分かんないですね。そういう風なことでやり始めて・・・しかし、見守りで1番大事なのは、年寄りの辛さとか悲哀とかに、いかに共感するかということ。それはもう、全部自分の親が教えてくれとるはずなんです。だからそういった人が周りには多い。そこらあたりが一つのキーワードになるかなということ。

そういった人達が「今、本当に大変だけど頑張ってる」って。あとはまた「自治会でも助っ人隊でも活かせる場があるけんがね」ということで、一本釣りの対象になっていく訳ですね。あとは階段のペンキ塗りとか何とか、自治会の会合で呼び掛けて参加してもらおう・・・やっぱり新しい顔ぶれが出てくる訳です。これも絶対、一本釣りの対象！助っ人隊から「入ってくれんやろうか？」と声が掛かるのは光栄なことであると(爆笑)、こう、思わせるぐらいに・・・いや、本当はキツイですよ。キツイところから乗り越えていかんといかんかなーと。

中野先生もおっしゃった、「安心感・便利感・お得感」が自治会活動三原則だと。私も朝夕必ず・・・雨降り以外はスクーターで見回りをしています。やっぱりバイクの音を聞いたら安心すると。後は・・・救急車ですね。救急車も2年前と比べたら2倍ですよ。やっぱり自治会長としては、ピーポーピーポーという音は気になりますね。ピーポー ピーポー・・・と小さくなったら、よその町に行きよるとですよ。ピーポー ピーポー・・・「プッ」となったら「あっ、俺んどこだ!!」って感じで・・・出ていかんばですたいねー!

「どがんとや!」てな感じで。そして「そこまでせんばと?」という、かえって迷惑になるんじゃないかと。でも、やっぱりそこに出て行けば、「来らしたよ」って。そこまでやるかってことですよ。

最近、隣に救急車が来ても、出て来られませんよ。それでも翌朝になれば「何やったとやろうか?」って、聞きたくはあるわけです(笑)。私のイメージとしては、寒い時であればガウンか何か着て、玄関口に出てきて、様子を見守る・・・せいぜいそのくらいは、という感じがするんですけども。ヒソヒソですもんね、その辺。電気1つ付かないですよ、どうかしたら。



だから・・・とにかく昔の大家と店子の関係じゃないですけど、「もう、面倒見るぞ」という風に、やっぱり2期ぐらいは頑張らんばかなあということです。やっぱり継続化となれば、誰か苦勞せんばいかん。誰かがせんばいかんというようなことで、もう、あきらめんばしょうがないんですね、ある程度は。

後は後継者という意味で、新しい顔ぶれ。それから今、介護中とかで共感できる人あたりを、いかに手元を集めておくか。そして「その経験は、いつか役に立つけんね」という風に、ある程度後継者も育てんと。私達が後につながんと、尻切れてしまいますもんね。何にも出来んようになってしまいますよ。私達はまだ昔の自治会の記憶がある訳ですから、いい部分はやっぱり、後に残さんばなあと。

昔なんかでも・・・今は児童虐待とか何とか言われて。私も昔、親のいうことを聞かずに、夜に「帰って来んでよか」って叩き出されたことが何回もあります。そんな時に隣のおばさんが「謝ってやるけん」って付き添ってくれて、うまく収まってたんですよ。今は収まりが付かないんですよ。隣の子どもを何を・・・謝らんでよか！って。

だから、そういったところで昔は、クッションみたいなものが地域にもあったとやけど、今はもう、無いということですよ。だから直接、虐待までいってしまう、そんなところがあるんじゃないかな。そういう意味で、自治会というところは、ある程度、クッション材みたいな役割も必要かなーという風に思っています。

ありがとうございます。

自然に3班の「ささえあい活動の継続化・活発化」というテーマに移っていったような気がします(笑)。では2班と3班のテーマを少しくっつけた感じで論じてみては・・・。

(テーマ2) 自治会活動の、目に見えない部分での苦悩・課題

(テーマ3) ささえあい活動の継続化・活発化

小柳会長、いかがでしょう。美しい事例紹介の折にはいつも、白木自治会の事例が挙がりますが、そこに苦悩・課題というか・・・。

(小柳さん) いきなりで・・・ちょっと、あれですけども(苦笑)。私達が、ささえあいのボランティアをしようというのは、地域の情報が中々入ってこないというので、何かをするためには「情報を得ることが必要」と思って、「とにかく動こう」ということで始めたのが、このボランティアなんですよ。その辺から入ったんですけど・・・。

地域通貨もですね、何かしてあげれば、お返しを考えてしまうからですね、定額で済むように考えて、総科大の環境学科にその運用の仕方を相談したらですね、「環境が良くなるためには生活が安定せんば良くならん。自分達も環境学科なので、お手伝いしましょうか？」というのが元々のきっかけなんですよ。今の時代、中々、個人情報が入ってこないですよ。そういうところから始めたというのがあります。でも、うちの町は商店とか・・・地域通貨を使える所が無くて、中々広がらないというのが難点で。

それから「継続化」ですけど、「次の人にどうやって繋ごうか」というのがテーマで、私の任期も今年度限りで・・・それで考えてるんですけども、やはり60歳から70歳までが自治会活動に最適かなと。そのあと、私達卒業した人達がですね、自治会を離れるんじゃなくて、お手伝いをして・・・輪が広がっていけば継続出来るのかな、ということで今、取り組んでいるところです。



それともう一つ、私のところは自治会長イコール公民館長になってるんですけど、実際は私も忙しいので他の人にしてもらってますけど、やはり役員になれば年中、何でもさせられて大変だと、役員のなり手が少ないんですけど、公民館と自治会の仕事はそれぞれ手分けすればいいのかなーと思って、そういう動きをしようかとしています。

そして、そういうことを立ち上げる時ですね、私達のところでは、地域のことを考えてもらう会議を、自治会以外に作ってるんですよ。要するに諮問機関みたいな格好で。そして、そこで「こうしたら良からう」などの意見を聞きながらやっています。

ありがとうございます。いかがでしょう、このテーマに関してのご意見・・・小田さんのところも、たくさんの方を巻き込みながら、活動を続けてらっしゃいますが・・・。

(小田さん) そうですね、目に見えない部分での苦悩とか。

やっぱり自治会活動をして、それを自治会の皆さんによく理解してもらってない。

「何のため自分たちは活動してるんだらう？」というのが多分・・・自分達の役割が見えない、というのがあるんじゃないかな、と思うんですね。そのためには、さっき言われましたように、何のためにやってるかを、皆さんが分かるように活動する。そのために、たくさんの方に参加してもらう。その努力をしていかないと、一部だけでやってたら、会員の皆さんと役員が離れてしまてってですね、「何やってるんだらうか」「自分勝手なことばかりやってるんじゃないか」とか「行政の下請けみたいなことやってるんじゃないだらうか」ということになってくると思いますので、出来るだけこう、たくさんの方に参加してもらうということが1番大切じゃないかな、という風に思ってます。そういうことを例えれば、自治会長が何でも引き受けるんじゃなくてですね、やっぱり役員にやってもらうとかですね、1つの行事にしても、どうしてもより多く参加をして貰えるか、そういう視点でやっていったら、自治会活動に関する苦悩というのが、無くなってくるかなあと、私自身は思ってます。

私自身はですね、自治会活動が好きなんで・・・何と云うか、色々あってもですね、苦しくはない、楽しむために自治会活動をやってる。自分が好きでやってるんですね。

例えば、ちょっと言いましたけども、女の都ではですね、どうしてもっと自治会活動が活性化するかというのがテーマにありましたし、それから新しい課題がいっぱい出てきますので、その新しい課題にどうして応えたらいいのかというので、アンケートを取ってみた。そしたら、どんどん広がってきたんですね。「挨拶がもっと必要じゃないか、挨拶をしよう」とかですね。あいさつ運動の歌ができたから、もっと広げるために「音楽会をしようや」とかですね。私達が主ではないですが、「地域で放課後子どもクラブを作ろう」



とかですね。いっぱい広がってきてるんですけども、その新しいことをする度にですね、必ず「ちょっと待てよ」という意見が出てくるんですよ。「今のやり方じゃ賛成できないよ」と。「いいことはやるんだけど、やり方に反対だよ」という形で引き留める・・・そういうのが必ず出てきますので、そういう人達に対して、どういう風に接していくか。

そういう意見も大切にしながらですね「やっぱり皆で地域を作っていくんだ」という視点でこう、遠回りしながら、最終的には皆に参加して貰えると、楽しい活動になっていく。私自身としてはですね、この5～6年の間に参加する人は確実に増えているし、あいさつ運動なんかも良くなってきているという風に思っていますので・・・まだまだですけど、随分楽しい、いい活動が出来始めてるかな、という風に思っています。以上です。

反対意見も切り捨てずに、遠回りしてでも皆さんを巻き込みながらやっていく、ということですね。ありがとうございました。

(テーマ4) 自治会と民生児童委員とのつながり

テーマの説明

光風台第2自治会の富増です。4・5班ではまず、見守り・支え合い活動をしている自治会の発表をしていただきました。

まず矢上自治会では、毎日3時から1時間位パトロールをされているということ。それから木の剪定なんかを皆さんでやってるということでした。

それから青山自治会ですけども、年に2回、お年寄りとの食事会を企画しているという話がありました。周りにいる私達自身は、そういう活動は出来てないんだけど、「どんな仕組みになってるんだろう？」と思って聞いていくうちに、自治会役員の中に民生委員をされている方を取り込む、というお話が出てきました。

それで私もずっと、この“お年寄りの見守り・支え合い”と民生委員とのつながりが難しいと思って。「どこまで話を聞き出せるのか？どこまで入り込めるのか？」すごく気になっていたんですけども、青山自治会では、青少年部や婦人部の役員という形で民生委員さんが入ってこられて、すごく活動がスムーズにいったるなぁという風に思いました。先程紹介された日帰り雲仙旅行とか、そんなのも含めて、話し合いがうまくいったるんだろうと思います。540名位の大きな自治会なんですけども。

やっぱりリーダーシップをとる人がいなければ、色々な活動は出来ないだろうなぁと言いながら、自治会と民生委員のつながりを深めていくためには、どのようにしたらいいのか、ほかの皆さんのお話も聞けたらいいな、と思いました。以上です。



ありがとうございます。それでは、困ってる話、うまくいった話のどちらでも結構です。この件に関して、「うちの自治会はこんな風にしてるよ」という、ひと言でも結構ですので・・・。

(山口さん) 鶴の尾です。うちは400世帯で民生児童委員さんが一人。で、班長会を月に1回やっとするんですけど、民生委員さんに出て来てもらうのに、「民生児童委員」そのままの名前じゃまずいかも知れないんで、自治会の専門部(福祉委員)として来てもらうようにしました。

“助っ人”活動にしても、全く、皆目分からんもんですから、うちがだいたい把握した“ひとり住まい”や“高齢者二人住まい”のお宅に、「とにかく一緒に行ってください」ということで、事前に「近々お伺いします」というチラシを入れておいて、一緒に行ったんですね。

あと、民生委員さんも昼間は仕事を持っておられるということで、「見守り所帯連絡カード」というのを作って、自治会活動で知り得たものはドンドン民生委員さんの方に流していくようにしています。結構これ、書いてくれるんです。1回書いとけば、あとは名前と班だけでもいいですもんね。「今日行ったら、ああやった、こうやった」ということで「ちょっと認知が出てるけど、どうしましょうか？」ということ、民生委員さんや包括支援センターに連絡する。結構・・・認定を受けることに抵抗があるんです。それでも、私達に関われば「自治会長さんが言わすとやけん、行かんばやろう！」というように感じですね、結構そんなことがあるんですよ。

だから、うちの場合は民生委員さんとの関係はうまくいってます。民生委員さんから「最近あそこ、行っとらんとやけど、何かありますか？」というような電話があったりしますから、「この間行ったら、こんな風だったよ」なんていう情報交換も出来てます。「民生委員さんは大変だな」という気持ちがこっちにあるんで、そんならアンテナ代わりにはならんばやろう、と。ひよっとしたら自治会の方がもっと日常生活の情報を取れるかも分からん。民生委員さんも、ちょっと認知が出たとか、細々したことまで入っていけんと思うのですよね、限界があります。そういう風なところで、地域活動で知り得た情報は、ドンドン民生委員さんに流していこうと。情報の共有化をやってます。



見守り世帯連絡カード	
氏名	姓 名
生年月日	大 新 姓 月 日 () () ()
住 所	姓の略記 番 号 (種 別) 号 ()
民生委員	姓 名 前 生年月日 年齢 性別
世帯の連絡先	性別 () 年齢 ()
備考	
その他	

ありがとうございます。それでは・・・松島会長。

(松島さん) うちの自治会はですね、民生委員さんに副会長に入ってもらってます。だから、民生委員さんと自治会とは、もう風通しのいい流れなんで、お互いに困ってることとかも話し合っ、一緒に活動してます。以上です。

ありがとうございます。小田さん、どうぞ。

(小田さん) 皆さんのところはどうか知りませんが、私はこの6年活動してきて1番良かったと思うのはですね、さっきこの班の中で出たんですけども、自分達だけで考えないというか。例えば自分達の会議の中に、社会福祉協議会の人に入ってもらうとかですね。今日、社会福祉協議会の地域福祉課の本村さんが来られてますけども、ここの力を借りて、地域や自治会を活性化するというのは、これからのポイントじゃないかな、という風に思ってます。

この6年間やってきてですね、ずっと我々の会議の中に参加してもらってる。夜の会議なんかも随分来てもらってます。本当に助かってですね。私達は自分達のことしか考えられませんけども、長崎市全体とか日本全体のこととかですね。やはり専門家がいるのといないのでは、地域の会議にとって全然違いますので、これからは社会福祉協議会や・・・行政もそうですけど、そこと一緒になって自治会が地域のことに取り組んでいくというのが、これからは本当に大切だな、という風に思ってます。それで今はですね、我々のところでも「孤独死ゼロ運動」というのをやろうということにしてるんですけども、そこには社会福祉協議会の方に入ってもらって、彼を中心にして、作り上げてるといふこともありますし。本当に助かっているというのがありますので。やっぱり専門家の力は借りた方がいいかな、という風に感じてます。

ありがとうございます。平山台1丁目の権藤さん、お願いします。

(権藤さん) 私は、去年の12月1日から民生委員になったばかりで・・・やっと1年になるかどうかというところの新米です。幸い自治会長さんが、背中合わせに、もう30年一緒に住んでますので、仲がいいんですね。それで、会社を去年6月に辞める前から、「いつ辞めるとや、いつ辞めるとや(笑)」って。

で、辞めたらすぐ「自治会の役員をしてくれ」と。今、自治会の役員と民生委員をします。こっちも助かるんですよ。何かあったら時に、やっぱり1人で行くよりは2人で行った方がいい、ということもありますので。すぐに自治会長に電話をして「あそこで、あんな事があってるんで、ちょっと一緒に来てくれませんか?」「よかよ!」って感じで、さっで行くんですね。お陰でこっちも心強いし、自治会長さんとしても、そういう状況が把握出来るしですね。

実は12月に民生委員になった時から、「自治会と民生委員が別々っておかしだろう」と思ってたんですよ。で、もう、こっちからもアプローチしてですね。自治会の役員を始める前から自治会の会議には出るようにして・・・。絶対これ、一体じゃないといけないと思います。もし、一体でないようなところがございましたら、相手が来るのを待たないで、自分からアプローチしてですね、民生委員だったら自治会に、自治会だったら民生委員にアプローチして、協力関係・・・握手しないと、お互い共通の部分がいっぱいあるんですよ。是非、そうなれたらいいなと思います。以上です。



ありがとうございます。それでは市山会長、お願いします。

(市山さん) 私の自治会には、民生委員と児童委員が合わせて5名います。540世帯ですけど、あの一、自治会長が民生委員・児童委員を推薦するんですね。それで私のところは結局5名とも、専門部の部長・副部长さんになってもらってます。それで自治会の会議のときは、いつも出ていただきます。役員会の時も・・・部長・副部长さんですから、一緒にその行事を作ったり、または民生委員さん達が困っているようなことを、全体の場で言えないような時は私の方に言ってもらって、協力していく、と。

今から5～6年前、高校生のことだったんですけど、民生委員さんから私のところに、「こんな問題がある」ということで、私もその家庭に行ってみて・・・周り近所は困ってたんですね。夜遅くに音楽をかけたりして。それで高校2年生でしたけど、不登校になってしまって、周りの方々が困ってしまって、警察とか色々な所に相談に行ってるんですけど、中々対応できずに。「会長さん、親とちょっと話をしてもらえませんか」ということでしたので、何回か通ってお話をして・・・今はもう、二十歳を過ぎて、仕事にも行ってるということでした。

やはり互いに協力しながら、私達自治会が出来ることはしてあげる。そうしなかったら民生委員は1人ですからね。色々な問題を抱えてますから、出来るところは自治会長なり副会長なりがサポートしてあげる、ということが大事じゃないか。私のところは本当に自治会の活性化に役に立ってます。以上です。

ありがとうございました。

それでは社会福祉協議会の方から1件、紹介したい事例があるということです。

(本村さん) 博多区の子供会の秋祭りの事例をご紹介します。

寝たきりの高齢者の方を秋祭りというか、作品展に、寝たきりの高齢者を参加させたという事例がございます。子どもが立案から企画をする秋祭りなんですけども。

あるお子さんの親戚に寝たきりで高齢の方がいて、「このおばあちゃんを絶対参加させたい!」という企画が挙げたそうです。で、どうしたか? 四角い粘土をおばあちゃんの枕元に持って行って、「これを握って」って。

その手型をそのまま持って行って、作品展の机に置いて、名前を書いて・・・参加をさせたという事例がございます。以上です。



ありがとうございました。

お時間になりましたので、これでフリートークを終わります。

「フリートーク」終了

Chapter 6 自治会の運営

この回では、まず、
5つの班に分かれて
45分間のグループ討議を行いました。

フリートークでは、
グループ代表者による発表に基づき、
参加者全員による
討議を行いました。

おはようございます。

今回のテーマは「自治会の運営」ということで、かなり広範囲になりますので、皆さんと相談しながら、少し項目を絞って考えたいと思います。

全体として幾つかの項目を挙げまして、その中で、特に論じておきたい項目について、グループでお話をしていただきたいと思います。

まずは、事前のアンケートについてまとめたものがございますので、ご覧下さい。

* 役員の問題

自治会の運営といえるのかどうか、一番大変なことは**役員選出**です。班長さんは各班で毎年回り持ちですが、それさえも引き受けられないと、退会する会員がいます。それでも、班長さんが運営の中心で、何かと頼りにしています。

各部の部長は名前が重たいのか、活動の内容も知られないままに断られることもありますが、**2年間という期限付き**なので引き受けてもらえます。

今のところ、毎月決まった役員会、班長会をおこない、長崎市からの広報紙を配布し、夏祭りや敬老会など、「例年」行っている行事を消化している状況です。

班長さんと役員さんを活用して、何ができるのか、運営と言える内容にできるように、次回の講座を参考にしたいと思います。

自治会の運営は、一部を除きキャリアの長い長い会長個人にオンブにダッコの状態です。自治会組織の要となる**役員体制**も高齢化と固定化が進みつつあり、今後の課題です。

自治会運営に当って、継続してやってくれる会長さんを始め主要な**役員さんを確保できるか、育てられるか**が大きいと思います。そして班長さんを窓口にして会員の皆さんと繋がっていく。

まだまだ未熟な小生としては学ぶことばかりで、意見などは持ち合わせていません。勉強させてください。

* 他団体との連携

前回の見守り・支え合い講座の中でも語られていた**社会福祉協議会や民生児童委員、学校関連組織などと自治会との連携、ネットワーク作り**も今後必要となってくるだろうと思います。自治会活動と運営には、課題山積です。

自治会活動に関わって感じたことは、「活動課題が限りなく広がる」ことです。少子高齢化が急速に進む中、地域福祉、特に《一人暮らし高齢者対策》は重要で、**社協・民児協との連携、更には、地区の老人クラブや育成協などの団体とも協調**して事業の推進にあたることは肝要です。**単一自治会で進める事業、連合自治会で取り込む事業や、各々の団体に委譲するものなど調整**も求められます。

幼児から高齢者まで「安心して住める安全な町」を支えるために、微力ながら自治会活動に取組みたいと考えています。

* 金銭面について

それぞれの自治会に合ったやり方があると思いますが、特に**金銭面**などにおいては、住民の皆さんからのチェックが厳しいのではないかと思います。

個人的には、思いっきり活動するためには、転入者の方を含めて皆を納得させることができ、かつ、その地区の特性に合った、ある程度の「きまり」が必要なのかなと感じているところです。

是非、**皆さんの自治会の特徴的な「きまり」**を教えてくださいたいです。

* 住民への報告

自治会がしっかりと運営されていることを示すためには

①総会において**年間の行事・会計報告**をきちんとすること。

②自治会の運営を毎月**広報誌などで報告**すること。

以上により会員は自治会の意義を認め安心します。

私の自治会では約15ページにわたる総会資料を作成し、総会の前に全会員に配布しています。

毎月、広報誌「自治会だより」を発行し、町内全世帯（未加入宅も含む）に配布しています。また、インターネットホームページを運用しています。

* 個人情報の問題

個人情報保護 について、どうい話し合いができるか期待している。

個人情報の壁があって、地域での活動が進まない事例が多い。

（ゴミ出し支援、精神疾患者に関する近隣トラブル、民生委員との連携困難）

個人情報取り扱い規定を定めて、ホームページに掲載しています。

* 自治会規約

今は直接関わっていないので周りでいろいろ勝手なことを言うのは簡単ですが、本当に役員の方々は日々ご苦労なさっているのだということを、そばで仕事をしている夫をみて感じます。

そんな方が長崎市内の自治会にはたくさんいらっしゃることを肌で感じられる生の声を聞きながら、いつも心強く思います。

自治会規約・・・会員なら知っておかなければいけないことですね。

もう一度わが自治会の規約を読み直して参加します。



いかがでしょうか。皆さん、他にも、是非お話しておきたい事項、お考えがあれば、お伺いしたいのですが。

それでは、事前に皆さんにお配りした資料の中の「年間行事予定」について、2班の古賀会長（城山南部自治会）にご提供いただきましたので、補足説明をお願いします。

月	日	曜日	自治会行事予定表	部	依頼	提出	自治会以外の行事予定表
4	4	月	役員, 班長に文房具配布	総務	依頼	※	自治会組織調査票750世帯, 70班, ポスター10枚
			班長の手引き, 週間予定表配布				※生活道路環境整備要望書(旧自治会施工)
			役員, 班長名簿配布				※白ペイント等資材支給要望書
			子ども会名簿作成依頼	少年	依頼	※	※4月始めに富士見公園便所掃除契約書提出
			回覧	婦人	依頼	※	※清掃報告書提出(後期)

私共の自治会で作っている年間予定表です。左側の方は自治会関係、右側の方は自治会以外の予定を書いて、行事のところを特に太枠で囲っています。5月から2月までは、毎月1～2回、色んな行事をやっています。そのためには、前の月から準備を始めて、回覧でお知らせする必要があります。

ちなみに、出来るだけ行事は月末にするようにしています。月の初めに班長会がありますから、月末でないと、会員数が多いところは回覧が回りません。

今年度始めに、市の年間行事予定についてお知らせが来てましたので、そういうものも盛り込んでます。私達の年間計画として、いつ行事があるから、いつ準備して、いつ回覧を回さないといけないか、そういうことを皆で共有しています。

これは、1回パソコンで作っておけば、毎年使えるんですよ。日にちが変わるだけですから。

—この予定表は、役員の皆さんにお配りになるのですか？—

(古賀さん) はい。役員全部と班長さんにお配りして、公民館にも貼ってます。私共の自治会では「ガラス張りで作る」ということで、町内の地図も一緒に貼って、いつでも皆さんに見ていただけるようにしています。



ありがとうございます。出来るだけ早めに、こうした情報を皆さんにお出しすることで、協力者が増えていく、ということもあると思います。



今、「ガラス張りで」というお話がありました。年間計画もそうですが、住民の皆さんにきちんと情報を提供することは、とても大事なことですが、「住民への報告(P78)」という項目でご紹介しておりますご意見・・・
2班の冨増さん(光風台第2自治会)だったと思います。少しお話を伺えますか？

今、古賀さんの方からご紹介のあった年間行事予定表。自治会活動をするうえで必須の資料だなーと思っております。私共の自治会では、会長も役員も人事異動があまり無いんで、全部、頭の中に入れてしまっておるんですね。

毎月の役員会と班長会で、翌月の行事予定を確認しながら、お配りするレジメの中で、先程の資料左側に掲載されてるようなことをお知らせしております。また、年間通しての行事予定は、総会の時にお知らせしています。

あと、毎月「自治会だより」を発行してますので、各月の行事予定も、これに掲載します。そういうやり方で、わが光風台第2自治会は、運営をしております。以上です。



ありがとうございます。



それではもう一つのテーマでお話を。

1番始めの「役員の問題（P77）」・・・これはどこの自治会さんも悩みの尽きないところかな、と思いますが、1班の松島会長（ダイヤモンド3丁目自治会）のところでは、役員体制について、少し工夫をされているという話をお聞きしましたが・・・。

うちは、役員さんと班長さんと両方、輪番で回してます。役員さんと班長さんを兼務する場合もあるんですが、各班で話し合っって役員さんを出してもらいます。

36班ありますから、必ず36人の役員さんと、36人の班長さんがいる、という状態です。で、36人の役員さんの中から、私達が「会計に向いている人」或いは「総務に向いている人」というのを、皆さんの意見を聞きながら役割分担をするんで、「役員さんがいない」ということはありません。

ただ、「どの役員さんに、どの人が向いているか」ということを、私達がしっかり見極めて、その中で「この人」という人がいれば、執行部に残ってもらう、という方法でやっています。

—役員をお願いして断られる、ということはないですか？—

（松島さん） 役員にも簡単な仕事があつてですね。例えば衛生部のように、清掃の時のお世話係とか。「子ども会」や「総務」なんかの結構ややこしい役は、やっぱり敬遠する方が多いんですけど、そういう時は『なるべく』ってお願いして、子供がいる家は「子ども会」にとか、お年を召した方は「衛生部」にとか、こちらも色々、四苦八苦してやってます。まあ、その中にパソコンが出来る人が1人でも居れば、各部がスムーズにいくという、そういう状態です。

—ありがとうございました。—

(挙手がありましたので) 4班の市山会長(青山自治会)、お願いします。

私の所は“事務分掌”ということで6つの部があります。例えば、総務、防犯・防災、婦人・・・各部の部長、副部長は固定です。それから班長と区長があります。大体540世帯位の自治会ですので、13区に分けています。で、それぞれの区の中に、7つ位の班があります。この班長と区長は毎年変わります。その班・その区で、自分達で決めます。

6つの部の部長さん、副部長さんは固定ですけど、どうしても都合が悪くて辞めるという時には、その補充に「この人が適当じゃないか」ということを区長さんから出していただいて、そして私の方でお願いに回ります。

そして(この前もお話しましたが)民生委員の方々にも必ず、部長または副部長として入っていただいています。それというのも、今のように高齢化した自治会の中では、やはり民生委員の方々の力を借りなければ、中々、自治会運営はできない訳です。

それともう一つ。やっぱり自治会というのは、規約でも何でも、改正していかなければいけないと思うんですね。ずーっと昔からのまんま、という規約は成り立たないと、私は思います。その時代、時代に合わせて、いらない部があればやめて、新しい部を作るとか、そういうことをやっていかなかったら、私は自治会の活性化は出来ないんじゃないか、と思います。そういうことで、私達の自治会はやっています。以上です。

ありがとうございます。

まず一つは、「役員の体制」の問題と「民生委員との連携」ということを一緒に考えて、連携しやすい役員の体制・システムを作っている、ということ。

あと、本当に大切な提案がありましたけれども・・・その時々合った形に、やり方を変化させていくことが必要、というお話でした。

それでは、そろそろ皆さん、グループの方でお話をお願いします。



～5つの班に分かれて、45分間のグループ討議を行いました～

(グループ討議が終わりましたので) それではフリートークを始めます。
各班の代表の方に、グループ討議の内容について、発表をお願いします。

(1班) 参加者を増やす工夫、役員人事、懇親旅行について

鶴見台自治会の阿南です。1班では、まず「会長として困っていること、悩んでいること」は何か、ということから話しました。中身は「お金・役員・行事」と3つ位ありました。

人集め

最初に、人がたくさん集まる行事にするために、どういう集め方があるか……つまり、参加者を増やす方法は何かについて、お話を伺いました。

その中で、ダイヤモンド第3自治会では、自治会を活性化するために何が出来るかという話し合いを今、皆でして、役員だけでなく、大学の先生や学生さんにも来てもらっているそうです。

参加者を増やす方法は“皆で考える”ということ、それから“役員以外に参加者を増やす”ということ。仲間作りが必要ということで、ダイヤモンドでは、役員以外に志ある人が、ボランティアで活動できるように、“地域活動クラブ”を作っているそうです。

役員

次に「役員人事をどうするか」について。自治会それぞれなんですけども、古い自治会では、長いこと役員をしていて、中には20年位、同じ人が会長をしていたために、辞めたあと、手探り状態で大変困っている、ということがありました。で、この役員をどうするかについては、色々意見が出たんですけど、どうするか、というところまで中々行かなくて、会長をくじ引きで決めたりとか、非常に苦労しているという話が出て、終わりました。

旅行

その次に、それ以外に何をしてるか、という話で、「自治会で旅行をしているか」というお尋ねがありまして、年に1回してるとか、泊りがけで老人会がしてるとか、日帰りしてるとか、色々あったんですけど。結局、旅行をするということは、人のつながりを作るというか、特に泊りがけは親密さを増すというので、経費の問題もありますが、まだ実施してないところは検討する余地があるという意見がありました。



旅行の参加費の問題ですが、年間の自治会費というのがありますから、それを超えると、とても経営的に成り立たないので、参加費の集め方は工夫を要するという意見もありました。以上です。

(2班) 役員決め、連携、金銭面、規約、個人情報について

光風台第2自治会の富増です。2班は今日は「自治会の運営」、それに当面の問題ということで、非常に盛り上がりました。もう、色んな意見が出て、これを5分間で(泣笑)、どうまとめて、どう発表したらいいのか、困ってしまうほどで。役員をどうやって決めるか、或いは、他団体との連携はどうするか、金銭面・会計報告や規約はどうか、個人情報の保護は・・・この5つのテーマで、お話をさせていただきました。

役員

役員をどうやって決めるかって問題で、代表的なのは、青山町自治会さんのように、まず、会長や部長さんは固定で、区長さんや班長さんは大抵1年ごとの輪番で、その中から副部長さんに推薦するのが、おおまかなやり方だと思います。

会長さんが長いところもあるし、3年より長くは駄目よってところもあります。なぜかっていうと、場合によっては会長さんが自治会を独占してしまうと。そういう弊害をなくすために任期を3年に決めた自治会もあります。自治振興推進大会では、会長さんを20年しましたって表彰するんですよ。で、10年位役員さんやってると表彰する。役員さんが長いのを表彰するんだから、何も悪いことないじゃないですか(笑)。

そりゃあ弊害もあります。でもメリットは、流れをそのまま踏襲しますので、非常にスムーズに事が運ぶ。もし独裁者であっても、素晴らしい会長さんだったら、すごくいい自治会運営が出来るという、こういう面もあります。マンネリ化してしまうという悪い面もありますけど。大体・・・会長、役員、部長さんあたりは固定化しているのが現実かな、と。それをうまく、マンネリ化しないように工夫していく、という訳の分からない意見でまとまりました。

連携

それから他との連携ですね。育成会、子ども会、老人会、社協・・・その辺りとの連携は、どの自治会もちゃんとやってます。特に意識しなくても、子ども会が何かするって言ったら、当然、自治会も応援しますし、老人会にしても然り。その中で、青山町自治会さんの発表にもありましたけども、ダイヤランド3丁目でも、福祉部を作って、主に民生委員の方に入ってもらおう。こうしないと、今後の老人福祉についてはうまくいかないよね、という話で。これ、すごくいい意見で、実は私共、光風台第2自治会もそのようにしようかな、と丁度考えていたところでした。そういう連携の仕方、ですね。今後高齢化していく中で運営していくためには、民生委員抜きでは出来ないということだと思います。非常に良い意見だと思います。

それと老人会。すごい元気で、パワーがあるんですね。だから老人会を使う。随分と協力的な老人会もあるという風なお話を伺いましたので、老人会を毛嫌いしない。

それから「民生委員を使うというのはとんでもない」という、自治会長さんのご意見もありました。自治会と民生委員の仕事は違う、と割り切る自治会もあるそうで。今後はそれはもう、打破しないとイケないんじゃないかな、と思います。

お金

それから金銭面と会計監査。会計については予算立てをして、前年度の決算報告を総会でして、その時に会計監査もやるという、これはどの自治会もちやんとやってます。何が話題かという、飲食費を自治会費から支弁しているという誤解・・・大体、何かやると反省会をしますよね。で、ある程度自治会費の中からこの反省会の費用を支出します。それを非常に過大だと批判されるケースがある、と。

それで、出来るだけ飲食費の支出を抑えるために、手作りの料理とかで、お金の掛からないように努力してます。これはですね、必要悪というか、自治会は一切、酒宴とかはナシというの、それはそれで分かるんですけども、そういうギクシャクするもんじゃなく、お酒も飲みながら、意見も交換しながらっていうことで、反省会は適度な節操を保てばですね、これはいいんじゃないかと。ただ、役員が勝手にね、自治会の金で飲んで、これは駄目ですよ、と。このようなお話がありました。だから、逆に会員の目が厳しいのは、役員が自治会の金で飲んでるんじゃないか、いつも打ち上げで金を遣ってるんじゃないかと思われるのは良くないでしょ、と。ま、節度を保とうね、という話でありました。

規約

規約はですね・・・自治会そのものですから、規約の無い自治会はありませんでした。それを定期的に見直そうね、ということで。何を見直してるかという、役員手当の報酬（会場笑）。これは私の所の自治会だけなんですけども、役員の手当てというのは、実際は経費なんです。経費がすごく掛かるんです。それが手当てなのかってことで。でも全体的には、役員の手当てが突出するとまた、批判を受けますので、だから5千円とか・・・年間ですよ。1万円とか・・・これはもう、経費にもならないと、そういう風な話でございました。

個人情報

それから、最後に個人情報保護の話。いきなり、この個人情報保護の規定まで作っている自治会というのは少のうございました。何ですか、5千人以下の団体は対象にならない、という話で。しかし名簿がないと、自治会は運営できないということで、世帯主だけの名簿、或いは家族の個票をですね・・・どういう家族構成かっていうのを出してもらってる。これは毎年更新している自治会もありますし、2年に1度もありますし、数年に1度もありますけども、家族全員の生年月日、名前を書きわけていただいている。そのかわり、これをやるためには、必ず個人情報が外に漏れないようにしなければならぬ。だから、名簿を書きわけてもらうときは、明確にこういうこと



に使用します、情報は保護します、ということを書いておく。すると、99%位の方はちゃんと書いてくれる。どうしても書いていただけない人も1%位はいるという・・・長くなってすみません。以上のようなお話が延々とありました。

(3班) 役員選出、新しい人の「引き込み」について

北陽自治会の松田です。3班では、「役員体制」にテーマを絞ってお話をしました。自治会のお世話役になる人が、随分少なくなっているのではないかと。どこも高齢化で、お年寄りが多くなってきた。そういうことで、このテーマを選びました。勿論ですね、各自治会によって状況が違う。600所帯のところもあれば、200所帯のところもある。規模も、歴史も、システムも違いますから、一概に言えませんが・・・相対的には、役員選出が難しくなってきたかなあ、と。中には勿論、スムーズにいったる自治会もあるみたいに、私は感じましたけど。

役員

私のところは大変困っているんで、私が言いだっぺで、「役員をどう選出するか」これがテーマになりました。その1番の原因は高齢化ですね。うちは団地ですので、30～40年前は、40～50歳台の現役世代が、勤めながら自治会のこともやっていた。今は、現役は、ほとんどなり手が無い。だから、皆、もうリタイアした人がやってくるんですが、うちみたいに、リタイア直後じゃなくて、後期高齢者の人が（笑）役員になってるケースが多い。

しかも・・・役員になる人が、女性が多いですね。男性はなりたがらないですよ。輪番でなる所もあるし、選ばれてなる所もありますけど、輪番が回ってきた所帯で、ご主人がおられても、出て来られるのは奥さんで。そういう状態で、段々、役員も高齢化してるし、住民の方も高齢で、役員になるのが段々難しくなってくる。それをどうしたらいいか？世代交代、後継者・・・そういうのを、どうしたら克服していけるか、という点を、皆さんにお尋ねして、色んなご意見がありました。

行事

まず、行事をすると、そこに集まるのは大体同じ顔ぶれで。でも、その中に一人か二人、新しい人が参加する場合があります。その人達を大事にして、自治会活動に参加してもらい、関心を持ってもらうように働きかけては、という話がありました。

それから、今までやってる行事以外に、新しいことをやってみる、と。そうすると、そこに色々集まって来ていただけるのではないかと。そういう方達を引き込んでいくようにしたら、どうだろうか、というお話がありました。

大体そんなことで、話が終わりましたけど、私が感じましたのは、本当は、地域で貢献したいという気持ちは、みんな持っていると思うんですよ。必ず持っている。しかし、



あと1歩が踏み込めない。その、あと1歩を踏み込ませるために、どういう手立てがあるか。今から皆さんにお聞きしよう、という時に時間が来て・・・。そういうのが課題になったんじゃないかと思います。十分、皆さんのお考えをお伝えできておりませんが・・・すみません、以上です。

(4班) 役員選出、人材発掘、班会議等について

平山台1丁目自治会の木村です。4班も「役員選出」というテーマに重点を置いて、話をしました。まず、役員選出についてですが、1番最初に質問が挙がりましてのが、もう3～4年もしてるので、次に譲りたいけども、お願いに回っても中々、「はい」と言ってくれるような人がいない。そこが非常に悩みの種だ、ということで、その手立てについて、少しずつ、皆さんの意見が出て参りました。

役員

* * * * *

まず、お願いに行った時に「忙しい時は、出なくてもいいですから」ということは、絶対に言うてはいけない、と。やっぱり、責任を持ってもらわないといけないので、そういうことは言わない方がいいですよ、ということが、非常に印象に残りました。

それから、私達の所では、80歳以上で健康障害のある人達は、始めから役員にはさせていない、ということ。

そして(3班の発表にもありましたが)、行事の時に、非常に頑張っている人だとか、活躍してる人が必ずいらっしゃいますので、そういう人を見つけて、その人達を役員にするように努力をしていく、と。

また、別の考え方では、「この人は向いてるなあ」という人がいたら、もう、一本釣りで、お願いをすとかですね。そういう風にしたらどうでしょうか、という意見が出て参りました。

**人材
発掘**

それから、色々な行事の後に反省会がありますね。その中で、色々な話が出て参りますので、次の担い手に向いてるような人をさがしていく、ということですね。だから、若い人をなるべく巻き込むようなことをして、次の担い手を探す、ということですね。

* * * * *

それから、班だけで集まって班会議をすることがないので、班長さんが住民の意見を取り込む機会がないけど、どうしてますか?ということでしたから、私達の所では、必ず月に1回、公園掃除がありますので、その時に、掃除が終わってから、声を掛けて集まってもらって、「この間、自治会の会議でこういうことを話して、こういう問題が出てます。皆さんの意見を聞かせてください。」という風に、住民の意見を集約して、それを自治会に投げてもらうようにすれば、別途に班会議をしなくても、いいですよ、というお話をしました。

班会議

また、自治会長の意見として、町の真ん中にマンションがあって、マンションだけで独立してしまって、中々、自治会に入って来ずに、自治会員は減少して、自治会が縮小してしまう、という問題が起きている、ということが挙がりまして、以上です。

(5班) 担い手育成、人の輪(和)を広げる、知り合う

竹二自治会の梶です。私達は、軽い雑談から入りまして・・・城山南部自治会からご紹介のあった「年間行事予定」について、こうした情報をどういう風に周知するかということから話を始めました。

まず、回覧をする時に、直接会って説明する。それから、班長会議の内容を班長さんが自分でまとめて、それをプリントして配ってる所もある。他に、会議前に資料を準備しておいて、会議の席で班長さんに配る、という話もあったんですけど、それだと班長さんが何もせず、考える必要もないから、それが「良いのか悪いのか？」っていう疑問が投げかけられたまま、そこはそのままになってしまいました。

任せる

そんな風なところで、次の役員さんをもって話になった時に、新しい人に、責任を持って任せないといけない。ただし、自分が「出来る」会長さんだと、これが難しい。それでも、任せないといけないっていうのが、5班の意見です。

人集め

それから、「人を集める」ということについて話が出たんですが、1人が2人連れてきて、それぞれが、また2人ずつ連れてきて・・・人のつながりで、人が人を連れてくる、それで輪(和)を広げていく。で、そういう風に考えるとやっぱり、自治会というのは人のつながり・・・輪(和)が1番大切じゃないかと思うんですね。

そうは言っても、役員さんが行事なんかで、もう一生懸命やってて・・・ちょっと入りづらいような雰囲気になってしまってるんじゃないか。もう少し、新しい人が入りやすい感じにしないといけないかなあ。

知り合う

で、会長さん・役員さんの名前を覚えてもらうために、行事の時に名札を付けたらどうかと。新しく来た人、若い人、知らない人に、会長さん・役員さんの顔と名前を覚えてもらうと、ぱったり会った時も「会長さんだ」ということになるから。

つまるところ、1番大切なのは「絆」だろうと。みんなが顔を知り合うということが、自治会の基本ではないか。そうしたことの事例として、年間に4回位、草刈りをしてるけれども、そういう場を通して、人が知り合うことって大切ですね、という話をしました。そのあとに懇親会とか、弁当を食べたりとか色々やってるけど、中々、人が集まらないのは、どうでしょうか、と。

で、最終的に自治会がどうしたらいいかという話で。やっぱり、皆が自治会を必要として、出て来るのは、楽しいことをやる時か、若しくは、身に危険を感じる時・・・自分の所に危険が迫ってるとか、そういう情報を自治会が発信する時、自治会を必要と感じて、住民は自治会の方にやって来るから、その両方のことをよく分かって、自治会を運営していけばいいな・・・と、そこまでの話になりました。あとは、皆さんが発表されたことと同じようなことを、5班でも話しました。以上です。



ありがとうございました。貴重なご意見をたくさんお伺いしました。

* * * * *

1班から5班まで、共通して話が出たのは、やっぱり「役員」の問題なのかな、と。

次の世代に続く体制づくりというものを、皆さんどこも、課題に感じてらっしゃるのだと思います。

どうでしょう。今、発表があった中での感想・ご意見があれば・・・。

山口会長、お願いします。

(山口さん) ま、明朗会計でいかんばいけん、ということで、私の所では、金を使うことに関して、3種類の報告書(活動報告書、物品購入報告書、支払報告書)を作ってます。例えば今日、私は講座に来てますけども、駐車場料金も、だいたい900円位しますね。これは活動報告書で仕分けする。誰が、どこに行って、どんな会議に出席した・・・金はどれだけ使いました。それと交通費。車でも、市中央に来た場合には、公会堂ぐらまでの往復のバス代と駐車場代。それらを書いて、領収証を付けて、会計さんに渡す。そして、支出してもらおうようにしてます。

何かやってるうちに、全部、手出しになってしまったという・・・こういう関係が1番良くないと思うんですね。で、何かする時には総務の活動費として支払うような仕組みにしています。なるだけ会長という所は、あんまり金は扱わん方がいい。書類だけで。あとはもう、会計さんから払ってもらおう、と。会計さんが「何に使ったか」が分かる、処理しやすいような仕組みが必要だと思います。

* * * * *

それからもう一つだけ。去年、自治振興課の方でやった“ちょっといい話”・・・これ、うちは永久にやりますよ。例えば班長さんに「1年やったでしょう?そしたら、何か為になったでしょう?」・・・嫌なこともあったかも分かんが・・・ほのかに心温まる話も、「あなた達が1番、最前線におって、聞いとらん訳がない」と。見たり、聞いたりしとるはず。だから、3月の交代までに一つ、“ちょっといい話”を書いてください。出さんうちには交代はできません(笑)と、ちょっと脅しもかけてますけど。

まあ班長じゃなくてもですね。地域活動をしてて、ほのかな、心温まる話があったよね、聞いたよね。例えば、寒い時期に募金を集めるのに、家まで持って来てくれた人がいた。それは“ちょっといい話”だ。「あなたが辞めてもそれをするんだよ」という風なことですよね。それを、班長辞めたらもう「いいわ」ということじゃなくて、班長をした時に嬉しかったことがベースにあれば、また、フィードバック出来る。それで、班長を辞める前に最低一つ、



“ちょっといい話”を出させる。ま、三役以上は3件位は出さんば、ということで、私も今、必死になって探しよるところです。考え方によってはゴロゴロ転がってとるんですね、“ちょっといい話”ってのは。それを感性でもって拾い上げていく。それから交代してもらおう、続けてもらおうことが大事なかなあとって、必死にやってます。

ありがとうございます。

今のお話・・・最後の方にちょっと出てきた「班長を辞めても～」というところですが、私、5班の方に少しお邪魔しまして。そこで話があったのが、自治会長を輪番でやるにしても、「辞めたから終わり」じゃなくって・・・あんまり長くは無理だけど、1～2年だったらやれる。そして、辞めた時に「さよなら！」じゃなくて、サポーターになって支えていくと、ドンドンそういう人が増えてきて、いいのでは、という話がありました。多分・・・3班の小柳会長の理念としては、長く会長をするんじゃないかって、早く辞めて、脇からサポートをしていく、というお話を、前にお聞きしましたが。

(小柳さん) 私は、自治会の役員は60代でするもんだと。その後元気であれば、自治会の役員さん達のですね、手助けをするために働こうかな、と。そういうことを含めて、ボランティアを立ち上げて、現在の役員さんに話をして、やってるところなんです。もう一つ言わせてもらえば、逆に自治会の会長がですね、色々相談に行けば、「役員ばさせられるとやろうか」という敬遠があるんですね、やっぱり。出来れば私達が自治会役員を辞めた後に、皆で支えようね、という風に話を持っていけば、もっと広がるのかなあというのが、私の理想です(照笑)。ま、そういうことで、やってます。

ありがとうございます。急に押し付けられて、「後はおんたに任せた」と言われるよりも、「ちゃんと支えていくけんね」というサポートがあれば、新しい人も何とかやれるんじゃないかっていうことがあると思います。

1班の松島会長の所も、“役員以外”ということに目を向けてらっしゃるようですが・・・。

(松島さん) うちはですね、「皆が出来る時にやる」“地域活動クラブ”というのを作ったんですよ。自治会の役員を辞めて、「もう終わりました」で、「それから先は何にも無い」ということが無いように、ボランティアのクラブを作ったんですね。で、何をするかと言うと、今やってるのは、皆で草刈りをしよう。斜面地で草ボウボウな所を綺麗にしたらどうか、という話があって、そこで皆で集まって、毎週草刈りをして・・・。

現在45人位いるんですけど、例えば「今日は出来ない」って、それで結構なんです。20人しか集まらない、それでいいんですよ。それをずっと続けることで、町を綺麗にしていく。だから、自治会役員とは完全に別です。役員を辞めた人が、また入ってくれたりとか、段々増えていく要素になる。それが“草刈隊”であり、“トイレ掃除隊”である。

“トイレ掃除隊”にしても、「トイレの掃除ぐらいなら私にも出来る」と、そういう風な仕組みを作って、老人の人達が散歩のついでにトイレを掃除する。それで長崎市からの補助を受けて、地域活動クラブに入ってくるという仕組みを作りました。

うちの自治会に2つトイレがある関係で、月に3万、年間36万円のお金が地域活動クラブに入ってくるんです。それで、自分達で新しい苗を買ったり、市の補助がある分は補助をもらう、という仕組みで活動してます。

だから、辞めても終わりじゃないよ、次にそういう人を・・・次の担い手のためにも、何か作る、ここに置いておく、という格好で“地域活動クラブ”を作りました。



ありがとうございます・・・(質問の挙手あり) 北村会長、お願いします。

(北村さん) 今のお話にちょっと質問したいんですけど、この“地域活動クラブ”の会長というか、運営はどのようにやっておられますか？

(松島さん) 今ですね、一応、私が自治会長の時に出来た関係で、私が仕切ってるような状態なんですけども。その中で、草刈隊には草刈隊の隊長というのを作って、隊長が人を集めて、日にちを決めてやる、と。トイレ隊は今、副会長の山下さん(2班)がやるということで、決めてるんですけど。

自治会長がずっとしないといけない、という意味ではないです。たまたま私が発起人みたいな感じで作った関係で、代表みたいになってます。

(北村さん) そうすると、自治会とは全く無関係ということですか？

(松島さん) はい、自治会は関係ありません・・・全くということはないですが。自治会は地域活動クラブに年間10万円の補助をしています。「これで何かしなさい」と。それで、自分達で道具でも何でも買う。それに自分達の活動費を足して、独立してやってるっていう、老人会と同じ仕組みで。自治会とは別にしたんですね、会計でも何でも。だから、飲み会をしようが、旅行をしようが、関係ない訳です。地域活動クラブで、みんなで楽しくまちづくりをしよう、ということです。

(北村さん) ということは・・・会員さんはもう、ほとんどが退職されたサンデー毎日な方だと・・・。



(松島さん) 今は割と高齢者の方が多いですね。土曜日とか日曜日の作業になりますが、どうしても70歳以上の方が大半です。でも50~60歳の方もおられます。いつも、高齢の方から「若っかもんのおらん！」って感じで言われるんですけど、ま、若い人が出て来るまで頑張ってください、と。で、皆さん、ブツブツ言いながら草刈りをしてるんです。楽しいまちづくり、仲間づくり、と。そんな格好で言ってます。新年会もあります。皆で会議もしっかりやって、お酒も飲みましょう、と・・・自治会とは別ですから、自分達で汗した金で楽しもう、500円出し位で食事会をしようと、そんな感じでやっています。



(北村さん) わかりました。
ありがとうございました。

ありがとうございました・・・(挙手あり) 山口会長、どうぞ。

(山口さん) 鶴の尾でも“助っ人隊”っていうのがいるんですけど、班長さんが女性ばかりで、飲まれんとですよ。飲める場所はどこかと言えば、“助っ人隊”な訳ですよ。“助っ人隊”は自治会から全く補助は受けていない。というのは、自治会員でない人にも助っ人活動をしますから。「自治会の金を使って、そんなことまで・・・」と言われてんよう、自治会とは無関係で、綺麗なもんです。何もないですよ。

で、金の捻出をどうしようかと。団地の中に空き地が結構あるんですよ。その草刈りを、今までは、不動産屋がシルバー人材センターあたりに頼んでた。それを“助っ人隊”が全部請け負うてやる。結構ですね、年に3回位、空き地の草刈りをやれば、お金が入ってくる。結構・・・飲むくらいの金は・・・(笑)。これ、自治会に報告も何もせんでよかとやけんが、自分達が血と汗で稼いだ金やけんが・・・という風なことで、そこら辺り、ちょっと色を付けるために慰労をしている。あの一、その辺にもう少し空き地があったら・・・(笑)。ということで、皆さん、楽しんでやっています。

ありがとうございました。

最初に5つばかりの問題を羅列しましたが、皆さんのお話をお聞きして、これはもう、それぞれが無関係な問題ではないんだな、と感じました。

例えば、他との連携が取れるような役員体制にしてるとか、役員以外にも協力者を増やしていく仕組み。そして、新しい人を入れるためには、新しいことをやる。人と人が出会う場というのを、行事なり、旅行なり、ということで作って・・・出来るだけ、顔の見える、名前の呼び合える関係というのを新しく作っていく。そして、そこに一人でも二人でも新しい人が来たら、逃さない！そこを大切に、新しい担い手に育てていくということがあるのかな、と。

で、会長さんにしても、役員さんにしても、長いことによるメリット・デメリット・・・2班のお話にもありましたけど、全員が短い人ばかりじゃ成り立たない。これまでの経緯が分かって、流れのつかめる人もいた方がいい。そして、そこにプラス、新しい人も入って来れるように、敷居をグッと低くして。あんまり「頑張ってますよ」というのだけが見えると、新しい人は、そこに入りにくくなるんじゃないかと・・・5班ではそういう意見がありました。「頑張ってる」ことは勿論、いいことなんですけど、そこに、新しい人が入りやすい・・・ただ、入って来るのを待ってるだけじゃなく、入りやすい雰囲気というのを作っていかなくちゃいけないんじゃないか、というお話だったように思います。

すみません。大変中途半端で、まとめも出来ないままに、一番最後の講座を迎えてしまいましたけれども、お時間になりましたので、この辺で終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

「フリートーク」終了

**目指せ！自治会の活性化
担い手通信 ダイジェスト**

[編集・発行]

長崎市 市民生活部 自治振興課

TEL 095-829-1134

FAX 095-829-1233